

九州大学 経済学部 同窓会報 第65号

九州大学経済学部同窓会
事務局 〒819-0395
福岡市西区元岡744
九州大学経済学部内
TEL 092-802-5561 FAX 092-802-5560
mail: dosokai@econ.kyushu-u.ac.jp
郵便振替 01750-6-21743

目次

平成31年度行事予定(総会のご案内) / 1

研究院長挨拶

ありがとう箱崎キャンパス、そして
経済学部は創立100年を伊都キャンパスで迎えます
経済学研究院長 磯谷 明德 / 2

特別寄稿

私の歩みと母校への期待 伊東信一郎(昭和49年卒) / 3

支部だより

東京支部 事務局長 吉元 利行(昭和53年卒) / 6

関西支部 事務局長代理 清丸 泰司(平成2年卒) / 7

グローバルの原点 上田 純也(平成8年博士前期修了) / 8

福岡支部 福岡支部事務局 / 10

福岡支部交流ゴルフ会 第64回コンペを開催！
田原 浩(昭和57年卒) / 11

九大伊都キャンパスに東洋文化の交流拠点開館
佐々木 克(昭和43年卒) / 12

アサヒビール園でサロン会を開催 福岡支部事務局 / 13

お知らせ / 13

同窓生健筆模様

『アメリカ大手銀行グループの業務展開』の研究とその舞台裏
掛下 達郎(平成元年卒・平成3年博士入) / 14

さようなら箱崎キャンパス

さようなら箱崎キャンパス(写真)

中楯 潔(昭和50年卒)

藤井 美男(昭和55年卒) / 16

箱崎キャンパスの思い出 木下 悦二 / 18

『筥崎松原の青春』との惜別と明日への希望と

逢坂 充(昭和32年卒・昭和35年博士入) / 19

さようなら箱崎キャンパス

～学生として、同窓会役員として、大学院生として～

吉元 利行(昭和53年卒) / 21

リレー随想

意外な技術の話 松崎 昭(昭和41年工学部卒) / 23

就活記～私が農水省に!?!～ 竹澤真理菜(平成29年卒) / 24

経済学部名誉教授の会 / 25

国際学術交流振興基金執行状況報告(平成29年度)

国際交流委員会委員長 大下 丈平 / 26

九州大学同窓会連合会との覚書の締結につきまして / 28

平成29年度卒業生就職状況 / 28

同窓会役員名簿 / 30 同窓会歴代会長 / 32

同窓会からのお願い / 32

平成31年度行事予定(総会のご案内)

平成31年度の各支部総会を下記の通り開催いたします。皆様、お誘い合わせの上、多数ご参集下さいますようご案内申し上げます。

平成31年度 全国・関西支部合同総会

日時 平成31年5月18日(土) 15時～

場所 ハートンホテル北梅田
(大阪市北区豊崎3-12-10 TEL(06)6377-0810)

<お問い合わせ先> 関西支部事務局 谷村 信彦

公益財団法人 大阪観光局

TEL(06)6282-5908

E-mail tanimura-n@octb.jp

平成31年度 福岡支部総会

日時 平成31年6月18日(火) 18時～

場所 ホテルニューオータニ博多
(福岡市中央区渡辺通1-1-2 TEL(092)714-1111)

<お問い合わせ先> 福岡支部事務局 国生・高木

公益財団法人九州経済調査協会内 TEL(092)721-4900

E-mail soumu-02@kerc.or.jp

平成31年度 東京支部総会

日時 平成31年7月5日(金) 18時～

場所 学士会館 210号室
(東京都千代田区神田錦町3-28 TEL(03)3292-5936)

<お問い合わせ先> 東京支部事務局 吉元 利行

株式会社オリエント総合研究所

TEL (03) 5877-5590 FAX (03) 5877-5859

E-mail toshiyuki.yoshimoto@onet.orico.co.jp(会社)

t29yoshimoto@aol.com(自宅)

平成31年度 広島地区九大法・経同窓会総会

日時 平成31年11月開催予定

場所 未定

ありがとう箱崎キャンパス、そして 経済学部は創立100年を伊都キャンパスで迎えます

経済学研究院長 磯谷明徳

経済学部・学府は、1924年に九州帝国大学法文学部経済科として発足して以降、長きにわたって福岡市東区の箱崎キャンパスに教育研究施設を置いてきましたが、2018年9月に新キャンパスである伊都キャンパス（福岡市西区）への移転を完了しました。

大学のキャンパス移転構想の第一陣として工学部が移転を開始したのが2005年10月でしたので、本年9月末までに文系4学部と農学部が移転を完了することで、実に13年間にわたって新キャンパスへの移転事業が完遂したということになります。

経済学部・学府は文系4学部の中でも移転の最終組で、9月初めから教員が徐々に研究室の移転を行い始め、9月末までには伊都キャンパスに移転を済ませ、貝塚地区の事務部は9月18日から移転を開始し25日までに移転を完了しました。

さて、新キャンパスで経済学部・学府が居住するのはイースト2号館です。1階に講義室、2階・3

階にはセミナー室、3階・4階に院生研究室が配されています。4階から6階までが教員の研究室です。研究院長室と秘書室・同窓会事務局は4階にあります。講義室、セミナー室の数や規模については、箱崎キャンパスでのそれを大きく上回ります。共用となる500人教室が2室、350人教室と250人教室が各1室、100人から140人を収容できる教室が計3室、そして念願の円形階段教室が2室（70人と50人を収容）出来上がりました。

まさしく「新しい革袋」が出来上がりました。次に求められるのは、新しい革袋に入れる「新しいぶどう酒」ということになります。そのためにも、われわれ教員一同一丸となり、これまで以上に教育研究に努力、精進をしていく所存です。同窓生の皆様には、これまでと変わらぬご支援とご鞭撻の程を宜しくお願い申し上げます。



特別寄稿

私の歩みと母校への期待



経済学部同窓会東京支部副支部長
ANAホールディングス株式会社
取締役会長

伊東 信一郎氏
1974(昭和49)年卒

<自己紹介>

私は1950年に生まれ、宮崎県西都市で育ちました。近所には西都原古墳群があり、子供のころから身近に神話を聞き、野山を駆け回って川遊びをするのが大好きな少年でした。今でも魚釣りが趣味で週末にはよく行っています。地元の県立妻高校を出て、1970年に九州大学経済学部に入學しました。残念ながら大学で学んだことはあまり覚えていないのですが、当時、学生運動は下火になりつつある中、様々な社会の矛盾（ベトナム戦争、公害、沖縄返還等・・・）にどう向き合うのかが問われているように感じていた時代でした。当時は、わずかな仕送りに奨学金と家庭教師のアルバイトの生活でしたが、周りの多くの学生も同じようなものでした。金はありませんが、多くの友人と刺激あって沢山の本を読み、安い酒を飲み、人生を、社会の事を、おおいに議論していました。いろいろな葛藤はありましたが、楽しい日々だったと思います。それから、ワークキャンプという福岡のいくつかの大学との合同サークルがあり、障がいがある子供たちを集めてサマースクールを開いたり、養護学校に行き活動をしたり、少し真面目な活動もやりました。今はこの当時の仲間達と時々集まって昔話をするのが楽しみです。

勉強は、何か特に書き表すほどのことではないのですが、木下悦二先生のゼミで国際経済論の専攻でした。南北問題などがテーマで私の卒論のテーマでもありました。ゼミ仲間との久住山ゼミ合宿や飲み会など楽しかった思い出が多くあります。木下先生も気さくに、仲間のように付き合ってくださいました。私をはじめ、ゼミ仲間の結婚式にも出席していただくなど、卒業後もお世話になりました。先生が現在97歳でなおも矍鑠かくしゃくとされ、未だに現役で研究をしておられることは本当に素晴らしいことだと

思います。先生の益々のご健康とご長寿をお祈りします。

大学4年の春になり、就職活動では、「飛行機であればいつでも帰ってこられる」と思い、故郷宮崎に就航している全日本空輸（株）に入社しました。1974年のことでした。内定期間中に第一次オイルショックが襲い、翌年から就職事情は大きく変わっていくのですが、運が良かったのでしょう。

3年ほど前、会社の九大卒の仲間と、箱崎キャンパスを久しぶりに訪ねてみました。我が文系キャンパスは昔のまま、素っ気ない感じで建っていましたが、理系キャンパスは既に寂しいものでした。学生時代の箱崎や六本松界隈での懐かしい記憶を辿り、時間の経過を目の当たりにしました。これからの九大生も、新しい伊都キャンパスで素晴らしい思い出を築いていかれることと思います。

この後は、私が就職しましたANAグループの挑戦の歴史を振り返り、その歩みを紹介していきたいと思っています。

<ANAの誕生とDNA>

ANAは「日本ヘリコプター輸送株式会社」という純民間のヘリコプター運航会社として1952年に設立されました。いまでこそ、300機近い飛行機を保有するANAですが、設立当初はヘリコプターが2機、農薬散布や上空からのビラまきをする会社でした。私が入社した1974年頃は、年間の搭乗者数がやっと1,000万人を超えた時代でしたが今では年間5,200万人、売上も2兆円に迫るところまで成長する事が出来ました。

<現在窮乏・将来有望>

ANAグループの歴史は、「努力と挑戦」の歴史であったと自負しています。創業当時、初代社長の美土路昌一が語った言葉、「現在窮乏・将来有望」は、現在でもANAのDNAとして語り継がれており、額装されて本社の役員会議室に掛けられています。年配の方はご存知かもしれませんが、ANAはかつて「野武士集団」と言われてきました。華やかな鎧武者では



なく、泥にまみれて戦うのが野武士です。当時から、社内では「JALに追いつけ追い越せ」を暗黙の合言葉にしていました。彼我の差は大きかったのですが、純粋な民間の航空会社という誇りを持って、いつかは必ず追いつくぞ、という気概を持って様々なことに挑戦をしてきた会社でした。

日本の経済成長を背景に航空産業も成長をして、1986年、長年の悲願であった国際線に就航しました。大変嬉しかった反面、この国際線は就航以来赤字が17年間も続きました。撤退議論がされるほど苦勞をしますが、必死の思いで克服し、現在は成長の柱となっています。次々に襲ってくる様々な経営危機を乗り越え、国際線への挑戦をはじめ、新機材の導入、LCCへの進出、サービスの改革等、常に新しいものに挑戦してきた歴史を忘れてはならないと今も切に思います。

<事故・安全への思い>

その危機の一つ、忘れてならないのが事故の歴史です。1966年に東京湾事故、松山沖事故、そして1971年には、岩手県雫石上空で航空自衛隊機と接触して墜落するという事故を起こしました。航空機事故は、搭乗されていたお客様は勿論、関係される多くの人を苦しめる事になります。当然、会社の経営も大きなダメージを負いました。この悲惨な事故を経験する中で、安全あってこそその経営という事を肝に銘じ、様々な改革を行い、それ以降は現在まで47年間お客様がお亡くなりになる事故は起こしていません。会長の私が1974年入社ですから、ほぼ全社員が事故を経験していないことになります。しかし、事故を起こした事実を風化させるようなことがあっては絶対にいけません。そんな中、2005年に若手社員から「安全が根付いた企業風土を醸成するための教育施設が必要」という提案がなされ、ANAグループ安全教育センターを設置しました。ここでは、グループの全社員約4万人が安全研修を受けます。「安全は経営の基盤であり社会への責務である」をグループ安全理念として掲げ、皆様に安心してご利用いただけるよう不断の努力をしています。

<社長時代>

私は、営業、整備部門や空港部門の総務、事業計画、人事とあまり分野の定まらない経歴でしたが、思いがけず社長に就任したのは2009年、2008年9月に起こった「リーマンショック」の直後でした。社長になって初めての2009年度決算は、売上高が対前年で12%減（約1,600億円減）、2007年度比では約2,600億円減となり会社始まって以来最悪の赤字決算になり

ました。そんな中で2010年1月には日本航空が会社更生法の適用を申請します。さらには2011年3月に東日本大震災も発生し、ANAにとっても未曾有の経営危機を迎えていました。

この危機の中で、私は、「ANAグループは何としても自分の足で立ち続けるんだ」という強い思いを持っていました。その鍵は、「如何に社員と危機意識を共有出来るか」だったと思います。私は勿論、全役員と一緒に、社員に対して会社の現状を率直に直接語りかける「ダイレクトトーク」を何度も実施しました。全社員に「何としても自力でこの危機を乗り越える」という意識を持ってもらった結果、賃金カット、勤務協定の改定、年金制度の改定等、痛みを伴うコスト削減や構造改革を行うことが出来ました。従業員全員で力を合わせて乗り越えた危機でした。

そんな厳しい環境でしたが、2009年7月と2012年7月には公募増資を実施して資本を增強しました。二度も増資をして株式の希薄化が起きますので、多くの株主の方から非難をされましたが、生き残り、次の成長をするためには必要な事でした。この増資がなければ、現在の成長はなかったと思います。

増資によって得た資金の多くは、将来の成長に向けた航空機への投資に使いました。当時、ボーイング787という飛行機が開発中で、ANAはローンチカスタマー（新型機を最初に発注して開発の後ろ盾となる航空会社）になっていました。開発の遅れに経営危機が重なり、苦しい時期でしたが、将来大きく成長するためには絶対に必要な飛行機であるとの信念を持っていました。2011年に初号機をシアトルまで受け取りに行ったのですが、その感慨はひとしおでした。ボーイング787は、中型機ですが低燃費で長距離飛行が可能になったことで、これまでの飛行機では採算が取れなかった路線にも就航ができる「ゲームチェンジャー」であり、今ではANAのネットワークを担う成長エンジンになっています。

将来への布石という面では、他にLCC（ロー・コスト・キャリア）の設立があります。2011年2月に関西空港を拠点にピーチ・アビエーションを設立。2011年8月には、成田空港を拠点にエア・アジア・ジャパン（現・バニラ・エア）を設立しました。当初は、「ANAのお客様がLCCに流れるから失敗するのではないか」というような危惧もありました。しかし、蓋を開けてみると、これまでは飛行機を利用されなかった方々が多く利用されています。LCCによって航空旅客数全体のパイを拡大することができ

たのです。

2013年4月には、ホールディングス制に移行しました。ANAグループの中核は全日空という航空運送業ですが、純粋持株会社としてANAホールディングス株式会社を設立し、全日空もその傘下の子会社の一つになりました。これにより、LCCはもちろん、多くのグループ各社の自立、競争力の向上を促す狙いがありました。

大きな危機を乗り越え、国際線を積極的に拡大した事により、2017年度の営業利益は1,645億円と過去最高を記録するところまで来ました。厳しい環境下で力を合わせて努力してくれた社員に感謝したいと思います。

<昨今の航空業界>

世界の航空旅客数は、アジアを中心に大きな拡大が予測されています。アジア域内の航空市場は、年平均で5.5%伸びて、18年後の2036年には現在の3.5倍になるという予測です。特に「アジア⇄北米」の流動は、現在年間約1,000万人ですが、2036年には約3,200万人になると予測されています。

市場が成長しても、ANAが成長するとは限りません。世界では航空会社の淘汰が進んでいます。欧州では、かつてナショナルフラッグと呼ばれた航空会社が倒産・吸収されて、主要3社に集約されました。またLCCが台頭して既存の航空会社を脅かしています。そのLCCも、欧州では70社以上が設立され50社以上がすでに淘汰されています。

ANAグループは、世界の航空会社の中では、輸送旅客数で15位（国際線に限れば47位）に過ぎません。淘汰されずに生き残るためには安全・品質はもちろんのこと、強かな戦略が必要だと感じています。ちなみに、日本に就航する国際線において、ANAとJALの旅客数シェアはそれぞれ約11%ずつ、LCCを足しても合計で約25%です。残りの約75%は、海外の航空会社の利用という事になります。日本の航空会社が、LCCも含めてもっと頑張っただけでシェアを上げていくべきだと思います。

国内線に目を移してみますと、人口減少で需要は頭打ち、加えて、新幹線の開業や高速バスの進化などによる競争も激しくなっています。例えば、大阪＝鹿児島路線の旅客シェアは、2010年まではANA・JALで90%を占めていましたが、九州新幹線の開業、LCCの参入で、現在は40%にまで低下しています。今後もリニア中央新幹線の開業、北海道新幹線の延伸などによって、シェアは変化していくと考えています。今後の課題は、訪日外国人の利用

促進など、如何に新たな航空需要を喚起できるか、その意味でもLCCがどこまでやれるかだと思っています。

<これからのANA>

創業からずっとチャレンジをしてきた精神は今後も引き継いでいかなければなりません。例えば、ボーイング787に引き続き国産ジェット機のMRJのローンチカスタマーになりました。納入の遅れが話題になりがちですが、2020年半ばには素晴らしい飛行機になって、まずは日本の空を飛び始めます。また、2019年春には、超大型機A380型機がウミガメの塗装で東京＝ホノルル間に就航します。新しい飛行機の導入だけでなく、例えば、自動手荷物預け機の導入、ドローンを用いた機体整備点検、アバター技術を活用した旅行体験、さらには宇宙ゴミの回収事業や宇宙旅行事業への出資など、ANAグループは、他に先駆け新しいチャレンジを今後もしていきます。

<母校への期待>

1年半ほど前に、ある雑誌で「もともとANAは野武士集団と言われ、ジャガイモみたいな人材がたくさんいたが、最近はずっとした頭のいい人ばかりに見える」ということをある方に言われたと書きました。私もまさに同感でして、多少不格好であっても逆境に強い、何事にも挑戦していく「現代風 野武士・ジャガイモ人材」が必要だと思います。私の青年期は高度成長期で、がむしゃらに働くことで企業は成長し、給料も上がりました。いま、皆さんの競争相手は、シリコンバレーのベンチャー企業や、中国深圳のハイテク企業の若者です。世界の若者に淘汰されないよう、新しい時代を先駆ける「ジャガイモ人材」がどんどん生まれてくれることを期待しています。

(編集部注記：2017年7月7日全国・東京支部合同総会での講演を再編成して頂きました。)



支部だより

東京支部

■支部理事会

2018年度第2回目の理事会を6月7日（木）7時から、東京・有楽町の「九大東京オフィス」にて、支部長・両副支部長を含め、11名にて開催しました。今年は、若手理事の国内外への転勤が多く、8名もの理事の方が退任されました。新たに、5名の新理事が選任されました。

現在理事会は32人で運営していますが、昨年から平成卒業世代が6割を占め、平成生まれの理事が4分の1を占めており、壮年・中年・青年のバランスの良い体制で引き続き、東京支部を運営していきたいと思えます。



■七夕総会

東京支部恒例の七夕総会は、7月7日（土）に学士会館にて開催しました。通常年が平日開催で夜の開催ということで、参加できない同窓生もおられますので、20年ぶりの土曜日としました。

昨年は、110名を超える参加者でしたが、今年は平日できない家族サービスの日の同窓生も多かったのか、75名の参加者となりました。総会では、活動計画、決算・予算案、新理事体制を承認いただき、第二部では、清水一史教授に「世界経済とASEAN・日本」と題して、ご講演をいただきました。

懇親会では、秦支部長の挨拶、出席名誉教授、現役教官、他支部・他学部の役員の方を紹介した後、新卒者を紹介。4月の新卒歓迎会に出席した人を中心に、平成29年～30年卒の方が多数参加してくれ

ました。来年は、会場の都合もあり、7月5日（金）午後6時からの開催となります。



■Summer Festa

九大東京同窓会（会長：桜井龍子法学部）主催の2018年Summer Festaが今年も、銀座の東武ホテルにて8月26日（日）5時から開催されました。今年は、初めての日曜日開催ということで、出席数の減少が危惧されましたが、実行委員会の若手卒業生の企画・奮闘のおかげで325名の参加者がありました。経済学部からは、若手理事が実行委員会に加わり、受付や進行などの重要な役割を果し、約80名の参加がありました。

本イベントでは、恒例の浴衣割引など、会費の徴収にも工夫をしていましたが、今年から、会費のクレジットカード決済も可能になり、早速、私も、カード決済しました。会場は、様々な学部の老若男女であふれかえり、中には、卒業生の駐日パキスタン大使、宇宙飛行士若田光一さん、伊東信一郎ANAHD会長（経済学部）などや、九大前総長、糸島市長などの顔も見られました。懇親会では、「大学の一番の思い出」別のテーブルに分かれ、映像や様々なコスチュームを使った進行や九大歴史クイズなど、企画が切れ目なく続き、会場一体となって、楽しむことができました。

【東京支部事務局長 吉元 利行 昭和53年卒】



関西支部



支部長挨拶

平成30年5月19日(土)午後3時より、ハートンホテル北梅田において、第43回関西支部総会が来賓・同窓生合わせて約50人の参加のもとで挙行されました。

開会に先立ち、松浦正純元支部長ほか昨年亡くなられた同窓生のご逝去を悼んで黙祷をささげた

後、第1部の総会が谷村事務局長(H3卒)の司会により進行。まず小森田支部長(S46卒)が挨拶に立ち、従来2月開催の総会が今年から5月になったが、今後の同窓会行事へも積極的に参加してほしいなどと挨拶。続いて谷村事務局長が行事報告・行事計画、役員改選案、会計報告を行い、全会一致で承認されました。そして、同窓会本部藤井事務局長から支部だよりなど同窓会報の誌面の充実を図っていること、また伊都キャンパス移転の特集号を計画していること、同窓会設立50周年の準備を行っていることなど同窓会に関わる近況報告がありました。

第2部の講演会では、松崎昭氏(昭和41年九大工学部卒、前神戸空港ターミナル(株)代表取締役、元川崎重工業(株)副社長)を講師に迎え、「意外と知られていない技術の話」と題する非常に興味深いお話をうかがいました。①新幹線の先頭車の形状が“だんご鼻”



松崎氏講演会

から“かものほし”へと進化した話。②潜水艦には、プロペラを駆動するバッテリーの充電方法、探知されにくいプロペラの形状など世界最高水準の技術が詰まっている話。③防衛省に納入している飛行機の部品はほとんどが国産であるという話。④貯蔵可能で質量当たりのエネルギーが大きく、CO₂を排出しない「水素エネルギー」の話など夢のある話をされました。詳しくは本号「リレー随想」欄を参照下さい。

第3部の懇親会では、清丸事務局長代理(H2卒)の司会により進行。①中野副支部長(S50卒)の開



講演会の様子

会挨拶、②磯谷経済学研究院長からの大学の近況報告、③名誉教授はじめ、大学・本部、福岡・東京支部、法学部関西支部から参加されたご来賓の方々の挨拶の後、④東京支部の秦支部長(S43卒)のご発声により乾杯が行われました。宴も和やかに進む中、“半世紀の握手”と称して昭和35～38年卒の5名と平成26～31年卒(予定)5名が壇上で交歓を行い、そろそろ終了の頃合いとなり佐野顧問(H38卒)の指揮により全員で学生歌“松原に”を斉唱し、最後に参加者最年長の水野鉄正氏(S35卒)の万歳三唱によりお開きとなりました。なお、今回は立食ではなく、皆さんが着席できるスタイルにしたので、疲れもなく時間もあっという間に過ぎ、大変好評でありました。

今後、平成30年9月8日(土)に第57回秋のゴルフ会(愛宕原ゴルフ倶楽部)、11月17日(土)に見学会(奈良市内散策)、平成31年3月9日(土)に第58回春のゴルフ会(場所未定)を実施する予定ですので、関西在住の同窓生は是非お誘い合わせの上、ご参加ください。お待ちしております。

【関西支部 事務局長代理 清丸 泰司 1990(平成2年卒)】



懇親会の様子

グローバルの原点



Daimler Trucks Asia
 (三菱ふそうトラック・バス株式会社)
 パワートレーン・サプライヤー
 マネージメント部長
上田 純也氏
 1996(平成8)年博士前期修了

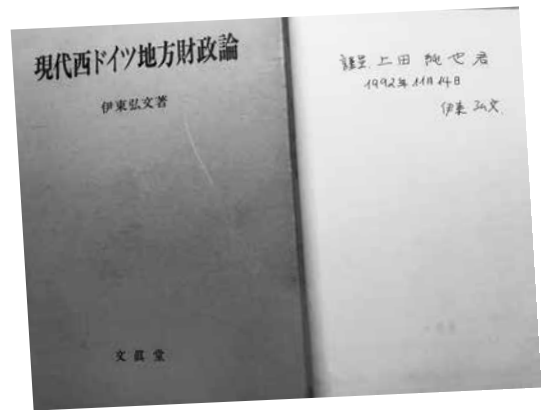
「一隅を照らす」～「人は誰でも、何らかの使命を果たすためにこの世の中に生まれてきた。どんな仕事を通じてでも、世のために貢献する生き方」という意味である。私の恩師である伊東弘文教授が好んで語られ、なかなか実行できないのも事実です。“グローバル”からはぶれないものの、色々な形で社会に関わってきた自分を振り返ってみたいと思います。

当初、グローバルレベルの研究者になりたい思いがあり、学部入試のリベンジで京大への執着は強かったものの、伊東教授の「現代西ドイツ地方財政論」を読み終えた後、“グローバル”なフィールドはここしかないと思断させるには十分でした。その後、ご縁をいただき伊東教授のゼミで指導を受けることになりました。伊東教授はカントと同じ生活スタイルをされており、早朝出勤され、午前中は研究に専念され、駅に着く時間、角を曲がる時間まで守り続けていたのは感心しました。それがドイツ連邦の財政学研究で著名となり、EUでも大きな存在感を出された結果だと思えます。

一方プライベートでは寮生活にあこがれたものの、なかなか入寮機会が得られず、ようやく大学院1年の秋に松原寮入寮が認められ、幅広い友人を作るきっかけとなりました。九大学生寮同窓会95年幹事をさせていただき、各世代の仲間との行事は楽しみです。

ドイツ統一や東欧のドイツブロック化が進む中で、研究テーマはより興味深いものとなっていましたが、一方で中長期では予算の削減が見込まれていたため、民間企業・官公庁への方向転換を決意しました。小生の勝手な気変わりを最終的に了承いただいたが、今でもそのことは申し訳ない気持ちである。

とはいえ96年卒は氷河期元年であり大変でしたが、幸いにも金融・シンクタンクなどの面接も順調に進みました。しかし、九大OBより債券価格のデータ



伊東教授より頂いた著書 (1992年)

などを説明していただき「業界として今後この給与水準は期待できないし存続自体危うい」とのアドバイスがあった。慌てて5月からメーカーまわりをはじめたものの、時すでに遅く苦戦したものの、幸い重工・ゼネコンなど民間企業数社に内々定し、また防衛庁(当時)に最終合格したものの、最終的に東洋製罐(現 東洋製罐ホールディングス)に入社した。人事部長であった川田氏(九大法卒)の人間味あふれる説明会に感動したのと、他社とは違い接待がなかったのに好感を持ちました。ご存知のように97年以降は一連の金融破綻や吸収合併が続き、本来入るはずだった金融機関は半分以上、既に存在していません。

1996年東洋製罐に入社、横浜で1年間営業をした後、本社でグローバル調達に従事。経理部で原価管理や決算業務を行った。また、中期経営計画策定メンバーとして経営企画にも深く関与できました。同期最年少で職制(管理職)に昇格しましたが、尊敬する上司が急に海外へ左遷されてしまい目標がなくなったことと、業界の中長期的な衰退を予測したため、翌月の2005年8月にクボタに転職しました。学生会館での結婚式で、伊東教授(当時学部長)と一



デリー大学同窓会キャリアフォーラムにて(デリー、2016年)



Oxford大学アジア地区同窓会総会（シンガポール2017年）

緒にスピーチをしていただいた朴善奎氏（当時 現代Mobis日本支社長）より「いくら優秀でも、良い業界にいないと成長は遅れる。常にMobilityを持つるように」との言葉を実践するタイミングでした。

クボタでは英語力と管理会計を生かしグローバルSCMマネージャーとして世界中の出張を経験することができました。2009年5月に海外駐在員としてKIE/KMA社（米ジョージア州アトランタ市）に赴任し、ダイバーシティーなチームを率いる醍醐味を実感できました。そして新たなチャンスが来ました。2012年1月に前任駐在員の体調不良もあり、急遽、異例の横異動でクボタのニューデリー駐在員事務所長としてインドに赴任し、グローバル調達の実現と7割の現地調達化を達成し、一方で2015年秋Oxford大学サイド・ビジネススクールHPLを修了。クボタはこの間、売り上げは倍の1.7兆円となり、株価も5倍となった。



IESS会議（チェンナイ、インド2017年）

2017年末、約9年間の海外駐在を終え、大阪で見た風景は外資系へ背中を押してくれるのに十分でした。2000年頃に外資系ヘッドハンティングR社に勤務のB氏（九大法卒）と知り合い、「どうすれば外資系の世界で活躍できるのか」と質問をしたところ、「歴史ある日本の重厚長大産業で20年くらい勤務し

て、45歳過ぎで転職にチャレンジすると良い。但し、色々な部署をローテーション希望して経験を積み、またビジネススクールでのスキルアップ、語学や専門性の資格も取得すること」とアドバイスされました。心に秘めていたその日がやってきました。

2018年4月、ドイツ企業であるDaimler Trucks Asia（三菱ふそうトラック・バス株式会社）に入社しました。英語公用語化の職場であり、従業員の約3割は外国籍、その国籍は25以上にもなります。まさしく、グローバルの最前線と言える職場で、世界唯一電気トラックを市場化しており、Daimlerは質量いずれも商用車では常に世界のトップランナーです。現在は日本企業が外資系傘下になるケースが多く、日本により根付いています。また外資系企業は若手や女性にとって早期からチャンスがあります。

伊東教授の意に反し、俗世界で生きている身としては「一隅を照らす」ことが支えとなり今日があると思ひ、感謝の念でいっぱいです。今後はグローバルなビジネスに留まらず、グローバルトップレベルの学位取得にも弾みをつけ、ご報告をしたいものです。



職場メンバーとの夕食会（学生会館、2018年）



福岡支部

1. 来賓・同窓生等200名超が参集し、盛大に開催 ～全国・福岡支部2018年度合同総会～

6月8日(金)、ホテルオークラ福岡において全国・福岡支部2018年度合同総会を開催しました。総会では、全国と福岡支部の2017年度事業報告、決算報告案、2018年度事業計画、予算案等が審議され、いずれも原案通り承認されました。



鬼木誠様による特別講演

続いて特別講演会に移り、衆議院議員の鬼木誠様（平成7年九大法学部卒）がご講演されました。ご講演では、なぜ政治家をめざしたかに始まり、九州大学や西日本シティ銀行での思い出や、政策立案や法制化にかかわる話題も話していただきました。九州大学に対する熱い思いが伝わる同窓会総会にふさわしいご講演でした。

懇親会には、200名を超える来賓や同窓生等が参加し、大盛況でした。貫正義同窓会長（福岡支部長、昭和43年卒）に開会挨拶をいただき、来賓としてご講演いただいた鬼木衆議院議員と村上法学研究院長に来賓挨拶をいただきました。それから5人の名誉教授紹介、11人の現教員・7人の留学生紹介、東京支部・関西支部・福岡支部の各支部挨拶・活動紹介を一気通貫で行いました。乾杯のご発声は、福留先生（昭和39年卒）に賜りました。秀村先生（昭和22年卒）からのメッセージも紹介していただきました。今回は乾杯の後の挨拶は行われなかったため、中締めまで思う存分同窓生相集い、歓談しました。

閉会の時間も近づいてきた頃、恒例の九州大学応援歌・学生歌「松原に」の映像を流し、参加者全員で合唱しました。最後は平井彰福岡支部副支部長（昭和55年卒）に博多手一本を入れてもらい、2018年度総会は閉会となりました。

今回の総会は西日本シティ銀行の同窓生の皆さんに幹事役をつとめていただきました。おかげさまで、2018年度福岡支部総会・講演会・懇親会を盛況裡に終



貫会長の開会挨拶

了することができました。この場を借りて、ご協力に深く感謝申し上げます。

【文責：福岡支部事務局】



名誉教授紹介



留学生紹介



懇親会の様子



「松原に」を熱唱

2. 福岡支部交流ゴルフ会 第64回コンペを開催！ ～5月13日（日）伊都ゴルフ倶楽部



優勝者 田原 浩 氏 (左)

(株) 東芝
関西支社長
田原 浩氏
1982(昭和57)年卒

5月13日（日）
に開催された「第
64回 交流ゴルフ

会」にて優勝させていただきました、昭和57年卒の田原です。

当日は、あいにく、朝から雨が降り続き、天気予報では「雨はさらに強くなる」ということでした。正直、「何とかハーフだけでもできればいいな」と思いながらプレーしていましたが、奇跡的に雨はそれ程強くならず、無事、全組ホールアウトできました。

今回は、過去最大規模となる68名が参加され、また、昭和の最年長卒年（『26』年）を平成の最年少卒年（『27』年）がついに上回った、ある意味、歴史的な大会となりました。

来年は元号が変わります。卒年で3つの元号が入り混じる大会を心待ちにしております。

開催場所の『伊都ゴルフ倶楽部』は、私のゴルフ歴で最も数多くプレーしているコースで、大好きなコースの一つです。



ゴルフ会表彰式

当日は、同伴いただいたメンバー〔中道徹也様 (S59年卒)、長澤利之様 (S61年卒)、平田達郎様 (H20年卒)〕と楽しくプレーさせていただき、OBとロストボールが1回ずつあったものの比較的好調で、悪天候だったことを考慮すれば、上出来（「43+43=86」）のスコアでした。さらに、同スコアの日高啓様 (H8年卒) を年齢で上回っているため、ベスグロ賞までいただき、ほんとに最高の結果となりました。ただ、貫会長 (NETで0.8差の2位、グロスでも2打差) を押しよけてのベスグロ優勝で、九州電力様に大変お世話になっている東芝の支社長として、営業上あるまじき行為と非常に恐縮しております。

さて、私は、今年の4月に九州支社から関西支社に異動となり、初めての関西生活を送っております。今回は、前々日移動で関西から福岡に戻り、前日は、超難関『古賀ゴルフ倶楽部』でプレーしましたが、



伊都ゴルフ倶楽部クラブハウス前で集合写真

この練習ラウンドが効果大であったかもしれません。

学生時代を過ごし、また、延べ11年間勤務した福岡は、私にとって最も愛着のある街です。これからも、福岡で開催されるこのコンペには全国どこからでも馳せ参じたいと思っております。

当日、幹事を務めていただいた九州電力の皆様にあらためて御礼申し上げます。

また、今後、当ゴルフコンペがますます盛大になりますよう祈念しております。

ありがとうございました！

.....

3. 九大伊都キャンパスに 東洋文化の交流拠点開館



(株) エフエム福岡
相談役
佐々木 克氏
1968(昭和43)年卒

平成30年7月20日、九州大学伊都キャンパスの椎木講堂の隣接に「日本ジョナサン・KS・チョイ文化館」が開館し、記念行事が開催されましたが、私も開館に至る関係者の一人として出席することができました。

本館は香港の新華企業集団の会長であり、又、香港中華総商會の名誉会長でもあるDr. J. チョイ氏が九州大学の有する歴史的意義を高く評価され、今後の「東アジアの歴史、文化、教育、研究の交流拠点」としての活躍を期待して九州大学に寄贈されたものです。

きっかけは1911年、アジアで初めての共和国政府の樹立に成功した「辛亥革命」の孫文が1913年3月に「九州帝国大学 医科大学」を訪問し、求めに応じて精神病学講堂で、当時の教授や学生の前で講演を行ない、「學道愛人」の扁額を残した事に、Dr. J. チョイ氏が感銘を受け、久保総長に寄贈の申し出をされた事に端を発します。

実はあまり広く知られていませんが、孫文の辛亥革命を支援したのが、多くの当時の九州人であり、それを題材に2011年の辛亥革命100周年を記念して、エフエム福岡が12時間に及ぶ「孫文と九州人」のラジオドラマを制作、放送した事等がきっかけとなり、私はDr. J. チョイ氏の知己を得、今日まで親しく交流させて頂いています。



1913年(大正2年)
九州帝国大学附属図書館
「孫文 歓迎会」

孫文と同じ中国・中山市出身のチョイ氏は、九州各地の孫文ゆかりの地を訪問する中で、久保総長のご案内で「學道愛人」の扁額を見られ、是非九州大学が孫文の意志により東アジアの学术交流の拠点として今後活動される事を期待してのこの度の寄贈となったとうかがっています。

又、2015年には石原九州日本香港協会会長を団長とする中国広州訪問団が革命を記念して設立された



「文化館」寄贈の調印式。右から石原JR九州相談役、Ms.B.チャン氏、Dr. J. チョイ氏、久保九大総長、安浦九大副学長、筆者。



「學道愛人」の前で挨拶されるチョイ氏

「中山大学」を公式訪問した際に、九州大学の安浦副学長が中山大学の幹部の先生方やDr. J. チョイ氏の前で講演され、九州大学が最初に外国の大学と学術交流の提携を行なったのが「中山大学」である旨を説明するとともに、九州大学の長い歴史とアジアにおける存在意義を強調され、中山大学と深い係わりを持つDr. J. チョイ氏に深い感銘を与えることができました。

一方でDr. J. チョイ氏は東京、大阪、福岡で開催されてきた「華人経営研究」というビジネススクールにおいて、開館記念行事で基調講演をされた東京大学の濱下武志名誉教授とともに、特別講義を担当されており、世界で60百万人とも70百万人ともいわれている華僑や華人の方々の経営的な価値観の研究にも深く関わっておられ、今後、本会館がその研究の拠点となる事を期しておられると思います。

今後の九州大学経済学部のかかる面での活躍が大いに期待される所です。

4. アサヒビール園でサロン会を開催

昨年に続き、今年も盆明けの8月17日（金）午後6時半、福岡支部恒例のアサヒビール園懇親会（サロン会）が開催されました。名誉教授の福留先



生、原田準一氏（昭和26年卒）、甲斐敏洋氏（同41年卒）、森恍次郎氏（同45年卒）、青柳泰教氏（同46年卒）、光富彰氏（同51年卒）、坂井智明氏（同51年卒）、藤本浩司氏（同60年卒）、重吉二憲氏（平成4年卒）、森永洋昭氏（同5年卒）、藤吉由貴氏（同14年卒）、そして事務局の高木の計12名の参加でした。参加申込みをして忘れる人もでるかなとちょっと心配していましたが、全員ほぼ時間通りに参加、出来立てビールとジンギスカンを楽しみながら、会話が弾みました。65歳以上が7人ということで料金も少し安くなりました。来年も大先輩と若手が集う楽しい会にしたいと思います。

【文責：福岡支部事務局】

5. お知らせ

(1) 交流ゴルフ会第65回コンペのご案内

福岡支部では、恒例の標記交流ゴルフ会を下記の通り開催します。ご友人等お誘いあわせのうえ、多数ご参加くださいますようご案内申し上げます。

日時 平成30年11月11日（日）
当日は7:40にスタート室前にご集合ください。
アウト及びイン第1組 8:04同時スタート
場所 伊都ゴルフ倶楽部 糸島市香力474
TEL (092) 322-5031

(2) 忘年会のご案内

福岡支部では、忘年会を下記の通り開催します。万障お繰り合わせの上、奮ってご参加くださいますようご案内申し上げます。

日時 平成30年12月17日（月）18:30～
場所 八仙閣本店
福岡市博多区博多駅東2丁目7-27
TEL (092) 411-8000

※メール、郵送、同窓会のホームページなどのご案内していますが、本会報をみて参加を希望される方は、下記事務局までご一報ください。

〈上記お問い合わせ先〉

福岡支部事務局 高木、国生
公益財団法人 九州経済調査協会 内
TEL (092) 721-4900
E-mail soumu-02@kerc.or.jp

同窓生 健筆模様

『アメリカ大手銀行グループの業務展開』の研究とその舞台裏



松山大学経済学部教授

掛下 達郎氏

1989(平成元)年卒

1991(平成3)年博士入

一昨年、2015年の学位論文を基に上記の著書を出版させていただきました。これは大学院時代からの研究を纏

めたもので、私の研究生活のおそらく前半を総括するものです。主査の川波洋一先生、副査の稲富信博先生、岩田健治先生にはこの場を借りて深く感謝いたします。なお、本書は公益財団法人日本証券奨学財団の研究出版助成を受けています。

本書の内容は、米銀大手の業務展開を掘り下げたもので以下のような章立てになっています。

第1部 業務展開の基礎構造

第1章 短期金融市場の展開：銀行流動性から証券決済へ

第2章 ノン・リコース・ファイナンスの展開：証券化の現代的基礎手法

第2部 業務展開の特質：OTDモデルの形成

第3章 証券化前史：ローン・セール

第4章 リスクの切り出し：デリバティブ

第5章 大手商業銀行グループの証券化業務への進出

第3部 収益構造とその源泉

第6章 OTDモデルの収益構造：業務展開の帰結

第7章 OTDモデルの収益の源泉：大手商業銀行グループの優位性

改めて眺めてみても、本書は研究を始めた大学院時代には思い付きもしなかった内容になっています。私の研究の原点は、昨秋永逝された深町郁彌先生のゼミナールにあります。先生から学んだことは沢山ありますが本当に自由に研究させてもらったと感じています。これは現在の私の研究活動にも生きています。

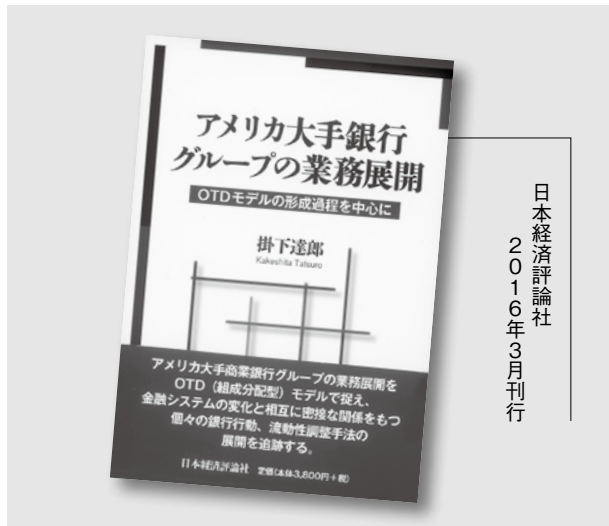
九州大学を出て5年後の1999年から、米国ノートルダム大学とマサチューセッツ大学に留学させていただきましたが、自由闊達な深町先生のゼミのおかげでM.H.ウォルフソンやJ.R.クロッティをはじめとする先生方から学ぶことができました。アメリカ研究をしている者として、若い時にアメリカの大学院で学べたことは私の財産になっています。このとき、ディムスキ・エプシュタイン・ポーリン編『アメリカ金融システムの転換』（ポスト・ケインジアン叢書30）の翻訳にたずさわっています。

その後、帰国後に『証券経済学会年報』に書いた論文が縁で、金融庁に呼ばれてシンポジウムで報告をしました。また、日本銀行や公益財団法人日本証券経済研究所に出入りするようになり、同研究所の佐賀卓雄先生の調査に同行しワシントンD.C.とニューヨークの規制当局と金融機関にも連れてってもらいました。留学中は大学の研究者のヒアリングに行くことはありましたが、実務家や規制当局の方々からお話を伺うことはこの時に学びました。この経験によって、文献調査だけではなく、現場の方々から学ぶことの意義に気付かされました。また、同研究所には私の研究を実務家の方々の前で報告する機会をいただき、現場の方々の感覚を学ぶことができました。同研究所からは『証券レビュー』の講演録、『証券経済研究』の論文、多数の分担執筆をさせていただきました、その内容は本書に活かされています。

同じ頃、東京大学の渋谷博史先生に呼ばれて、『アメリカ・モデルの企業と金融』の分担執筆と、駒場の教養学部の講義をさせていただきました。また、神戸大学の佐藤隆広先生の国際金融・開発経済研究会や恩師の川波先生の九州大学マネタリーカンファレンスに参加するようになったのもこの頃です。これらの内容も本書に収録されています。

また、出入りしている日本証券経済研究所が証券経済学会の事務局をしている関係で、2009年に同学会を勤務する松山大学で開催することになり、上海証券取引所の副総裁をお招きして特別講演をお願いしました。このとき、日本銀行をはじめとする方々にも報告していただきました。この学会には、恩師である深町先生も討論者として参加され、奥様ともご一緒に食事をさせていただきました。その後、北京の対外経済貿易大学でシンポジウムを開催しました。こうした中国との関係は深町先生とその教え子である留学生が早くから築かれていたものです。

もう一人の恩師である川波先生には『有斐閣経済辞典』や『現代金融論（新版）』に、証券経済学会



日本経済評論社
2016年3月刊行

と日本証券経済研究所には『証券事典』に執筆させていただきました。ご高著の書評を学会誌、学術誌に依頼していただいた先生方にも研究の視野を拡げていただきました。本当にたくさんの先生方に支えられて本書は成り立っています。

2011年から日本銀行松山支店長を囲んで松山大学金融研究会も始め、現在で支店長は5人目で26回開催しています。支店長と地元の研究者・実務家を中心に立ち上げたのですが、最近は関東や関西の先生方にも報告をお願いするようになりました。この研究会によって、地方に居ながらも研究のモチベーションを高め保つことができ、同時に日銀のネットワークで海外の調査先までお願いをしており、私ども地方の研究者には大変有難いものになっています。

JSPS科学研究費を取得してからは、海外調査は香港、上海、シンガポール、北京、シカゴにまで足を延ばすようになりました。昨春にはワシントンD.C.のFRB、IMF、世界銀行グループで調査ができました。今夏にはロンドンの金融街シティのBOE

と金融庁を訪問してきました。本書でアメリカ研究に一区切りを付け、英米大手銀行の比較研究に入ろうとしています。そのため、今後ロンドン調査を開始し継続していこうと考えています。英米は、同じくアングロサクソン型モデルもしくは資本市場中心の金融システムと呼ばれていますが、両国の金融システムの実態はかなり異なっています。それは、投資銀行業務の盛衰の違い、リテールバンキングの重心の違い、抱き合わせ取引の組み合わせの違いです。この違いをもたらしている要因やこの違いがもたらす結果には興味深いものがあります。伝統と格式を重んじるイギリスと創造と変革を志向するアメリカの国民性の違いが金融面にも表れているように感じます。こうした研究を今後も続けていき、また著作を発表できれば大変な喜びだと考えています。



(さようなら箱崎)

北門の歩道橋から見た3号線貝塚方面

九州大学 伊都キャンパス 完成おめでとうございます

株式会社フォンテム

〒631-0006 奈良市西登美ヶ丘8-15-14

代表取締役社長 **清水逸雄**

(昭和29年学部卒)



さようなら "Good-bye"
 HAKOZAKI CAMPUS
 箱崎キャンパス

Memo

中楯 潔(昭和50年卒)



ories

藤井 美男 (昭和55年卒)
協力: 大学文書館

- | | | | |
|--------------------------------|--------------------------|--------------------------|-------------------------------|
| 1 法学部本館 (大正14年) | 9 女子寮 (昭和46年竣工) | 14 箱崎文系地区玄関前の楷樹 (平成27年) | 20 ゼミ風景 (平成30年) |
| 2 法学部本館 (昭和11年) | 10 教養部田島寮 (昭和52年) | 15 北門から文系中門に抜ける道 (平成27年) | 21 講義棟廊下 (平成30年) |
| 3 移転した文科系学部 (昭和38年) | 11 正面前にあったブランタン | 16 経済学部玄関入った所 (平成30年) | 22 経済学部棟 (平成30年) |
| 4 六本松教養部 (昭和38年竣工) | 12 千代町にあった古書・山内書店 | 17 九大正門 (平成30年) | 23 生協学食 (平成30年) |
| 5 三畏閣 | 13 亭々舎 (平成21年) | 18 文系中門 (平成30年) | 24 授業風景 (平成30年) |
| 6 大型計算機センターに墜落し炎上する米軍機 (昭和43年) | 14 かつて活躍していた路面電車、九大中門近くで | 19 文系地区庭園の「噴水」 (平成30年) | 25 文系合同図書室横階段から見た最後の桜 (平成30年) |
| 7 中央図書館 (昭和47年竣工) | | | |

箱崎キャンパスの思い出



木下悦二先生（向かって右側）と
秀村選三先生 2018年6月20日
（経済学部秘書室にて）

九州大学名誉教授
木下 悦二氏

私が昭和38年に
経済学部助教授に
就任した時には、
法学部、経済学部、
教育学部の3学部
はすでに国道3号

線沿いのキャンパスに移っていました。法学部1階、
経済学部2階、教育学部3階でした。

経済学部の教授会は海側に面した2階の会議室で
行われ、教授は窓を背にした席に着き、助教授は窓
に面して座りました。新参の私にとって最も印象的
でしたのは、その頃は国道3号線の少し先は海で、
校庭の植木もまだ小さかったので、志賀島が正面に
見え、風の強い日には海岸に白波の立つのが見えま
した。何とも牧歌的な風景だと感じました。

私の研究室は研究棟の1階に与えられ、研究室は
法学部と混在していました、法文学部時代の名残
だったのでしょう。

それだけに、文学部だけは少し遅れて独立の学部
棟が建てられましたことで、古い先生方の中には文
学部は勝手なことをすると喧かれる方もあって、そ
ういう声を耳にしたこともありました。

昭和49年に経済学部長を務めることとなった時に
は、オイルショックのため、学部図書費予算を500
万円程度しか組めない有様となりました。そこで教
授会で「清く貧しくでいきますか、それともたとえ
泥を冠っても金を稼ぎますか」と申しましたところ、
亡くなった森本芳樹教授が「清く貧しくで良いじゃ
ないか」と言われたものの、「金が無くてはどうにも
ならぬ」ということで、大幅改組を行うことで了
承を得て、昭和50年2月に長老の都留大治郎教授(当
時、産業労働研究所長兼任) 同伴で大学本部に行き
手塚事務局長に会って、経済学科の助教授枠を振り
替えて新しい講座を開いてくれるよう申し出ました。

ところが、思ってもみなかったことに、局長は助
教授枠でなく、助手枠を使いなさいと言う。それで
教授10名の新学科案(名称は曲折を経て経済工学科
に)となり、それを幾つかに括れくくれという、そこで四
つに括りますと、それぞれの講座に助教授1名と助
手1名を付けてくれました。大講座制です。

少し説明を加えますと、それまでの講座制は教授
1名、助教授1名、助手1名です。教授が若くて助
教授に採用する人材が育ってないと、空き定員のま
まとなります。教員(教授、助教授)の定員充足率
60%といった例まで出てきます。これでは100%の
予算を60%の教員で使うことになります。こうした
状況の下では、文部省としても大蔵省との交渉に不
都合が生まれます。そこから生まれたのが大講座制
です。一講座の教授が数名で、助教授はそれよりも
少数ですから定員充足率が高くなります。

先に書きました大学事務局長は前任校の一橋大学
で大講座制の改革を行って行っていたので、それを
我々の経済学部を持ち込んだのです。しかも経済工
学科は実験講座(予算は4倍)となって、学部予算
問題は全面的に解消する改革案が整いました。

しかし、学部改革案の話がついたとたんに、局長
はやおら都留研究所所長に向き直って産業労働研
究所を廃止して下さいと求めました。経済部改革案と
産業労働研究所の廃止を絡めたのです。

どうしてそのような提案が出されたのかと申しま
すと、大学附置研究所は原則として6講座が最低で
す。ところが九大の産業労働研究所は大学附置研
究所ですが、経済学関連講座と法学関連講座の2講座
のため、文部省側ではこれを機会に廃止しようと言
い出したのでした。

都留所長は改革案を実現するために研究所の廃止
を決断しました。ところがそれに対し、法学部では
「菊池勇夫先生(戦後ただ一人の文系出身学長、労
働法担当)がお創つくりになった研究所を潰すとは何
事ぞ」ということで、猛反対が起こりました。その
ため経済学部改革案が実現できなくなりました。

そこで私は研究所廃止と経済学部の改革を切り離
そうとしましたが、すでに本省の文部次官にまで通っ
た改革案だからということでも全く行き詰りました。

同年11月に新たに就任された武谷健二学長に経済
学部改革案成立の経緯を詳しく説明して、その実現
への協力をお願いしました。武谷学長はそこで産業
労働研究所の改組問題は学長預かりとして、秀村経
済学部長の手で、昭和52年度にこの経済学部の改革
は実現できました。こうして旧帝大系で最小の経済
学部だった九大経済学部がこの改革で東大経済学部
に次ぐ予算規模を持つ学部になりました。

規模が大きくなった経済学部にはそれに見合っ
て、建物枠が一举に拡大しました。こうして片山経済
学部長時代に独立の経済学部棟を建設できることとな
りました。

片山経済学部長に命じられて私は経済学部棟関連の問題点を建築課と交渉しました。私は経済学部棟を正面の噴水の場所に建ててくれるよう主張しましたが、建築課にそれは勘弁してくれと拒否され、結局、運動場に近い現在の場所に建てることになりました。建物の中身については経済工学科も生まれたのだから経済統計資料室を整備するとか、IT機器導入で一般に部屋の天井が低くなっている状況下で、電気配線などを廊下に移し、部屋の天井を高くしてもらうなど実現できただけに、私には思い出深いものです。

今年9月には経済学部がそっくり伊都キャンパスに移りますので、経済学部棟もやがて廃墟となるだろうと考え、経済学部の将来の発展には喜ばしい事ながら、個人的にはいささか寂しい思いをしていたところ、秀村先生が『経済学部の同窓の皆様へ：老書生のお礼とお願い』という文書を発表され、その中で、箱崎キャンパスの跡地利用を巡って、中央図書館を県立図書館に、そして経済学部棟を県立公文書館として活用するよう訴えられています。先生は小郡の九州歴史資料館の資料を経済学部棟に移すとともに、加えて広く各種資料を蒐集することを通じて、中断されている福岡県史編纂事業の再開に導くよう提案されています。先生の立派な構想が実現することは経済学部棟の建設の関わった小生にとっても大きな喜びでもあります。同窓の皆様のお力添えをお願い致します。

.....

『筥崎松原の青春』との 惜別と明日への希望と



九州大学名誉教授
逢坂 充氏
1957(昭和32)年卒

大学が消えた——といえ、話が少々大袈裟になって恐縮だが、わが大学の正門横にあった古色蒼然ながら堂々たる旧法文系の建物をはじめ、理工系の建物のほとんどが取り壊され、そして今回、文系キャンパスも最後に姿を消すことになったので、確かに箱崎から大学が消えたのである。

もっとも、九大のシンボルとして箱崎キャンパスの中央に端然と佇む工学部本館はどうやら保存され

るが、学生時代、私は階段式のこの大講義室で、情熱を込めて語られた新憲法の講義を受けたし、具島兼三郎先生のファシズム論を拝聴した記憶もある。確かにこの本館は、私の青春の熱い思いや社会への開眼と結びついていた気がする。そういえば、旧法文系の地下室は、本誌で何度か紹介した同人誌『ちかぐるっぺ』を生みだしたし、また学生の研究会などの溜まり場や、奥には食堂もあって、多くの同窓生に親しみ深く記憶されている。

大学が消えたいま、大学の佇まいが私たちの青春の記憶と固く結びついていたことを、改めて強く思い知らされた。とくに私のように、生涯の大半を大学で過ごしてきた者にとっては、大学とともに青春があったのか、青春とともに大学があったのか、今となっては朦朧として判然としないが、歳を重ねて静かに振り返ってみると、箱崎キャンパスは、私の生涯にとって永遠に青春の地であり、懐かしい回想の地であった、という気がしてならない。同窓生の皆さんも、大学とともに青春があったということに、想いを深くされるに違いない。

私たちはいま、青春とともに過ごした大学と別れることになった。けれども、私たちの心の奥深くに刻んだ思い出の数々はいつまでも消えることがない。その確かな証しとして、幸いわが同窓会には一冊の書物が残されている。それは、タイトルに掲げた『筥崎松原の青春』であり、私も気が滅入った時などはよく目を通したものだ。この書物は、1978年(昭和53年)の発刊で既に40年前に遡るが、わが経済学部草創期以来法文学部50周年と経済学部独立25周年を記念して、大学とともに過ごした130余名の先輩同窓生の青春の思い出の記を収録したものである。「ここには、五十年余の青春の群像がある」とは、本書の編集委員長だった都留大治郎先生の「刊行の辞」の巻頭言であり、さらに「この半世紀の間には、大恐慌があり、戦争があり、敗戦があり、高度経済成長があった」と続く。

筥崎松原で育った多くの同窓生が半世紀の風雪を凌いで書き残した記録は、恩師の回想や親しい友人との交流だけでなく、暗い動乱の時代にもかかわらず、個々人の哀歎尽きない学生生活に密着した青春模様が明るく躍動的に綴られていて、じつに面白い記事で溢れている。とくに戦後の激変と混迷の大学で過ごした思い出の記には、師や友人との激しい論争、生活困窮との闘い、そして経済学という難渋な学問への挑戦など、ひたむきな青春の苦悩と情熱とが満ち満ちた、まことに痛快な記事が多い。なかで

も、豪快というべきか、「経済学はヤクザな学問だ」と書かれた過激な文章に接した時には、さすがに私も目を丸くして驚愕したが、このような泥臭いが意気軒昂で逞しく大らかな精神が、大正ロマンの草創期から昭和の激動の中で、いつしかわが経済学部の気風として培われた、といえるだろう。その精神が、本書に凝縮しているのである。とはいえ、この書物はじつは非売品で今では手に入らない。だから、遠い昔の書物の話をしても詮無いことではあるが、若い同窓生の皆さんには、同窓の先輩諸氏が宮崎松原の地で残した青春讃歌の貴重な記録があることを知って頂きたいのである。そして、来る経済学部100周年の記念には、再びこのような回想録ができれば素晴らしい、と心密かに願っている。



× × ×

ところで最近、私は、わが経済学部の伝統的な気風が今なお息づいていて大学と青春との深い絆に改めて思いを巡らせた。それは、去年の暮から今年の春にかけて、私が三度の集いに参加してのことである。

最初の酒宴は、暮れも押し迫った12月30日、昭和63年卒業のゼミ生8名が中洲のとある酒場に集まった。西部ガスの進研一君が幹事役で、今回が4度目になるが、じつはこの時のゼミ生はジャンケンという不謹慎な選抜の勝ち組だから元々運の強い意気盛んな連中ではあった。その彼らが「50過ぎても全く変わらぬ皆に感動」(重枝昭男君)とか、「30年経ったけど、すぐに昔に戻れた」(甲斐秀徳君)や「30歳若返った気分」(山中晋君)、「時代が変わっても一緒に飲もう」(渡邊啓一郎君)、などと進君が用意した色紙に書いて昔の無邪気なゼミ生に戻ると、大学と彼らの青春とが溶け合っただけで酒宴が一気に青春の熱い騒ぎに急変した。お陰で私も調子に乗って、つい「百歳まで生きよう、皆で祝おう」と思わず宣言して我ながら苦笑した。

次の集いは、今年の5月末に上京して、昭和32年卒の同期会である「東京九友会」に参加し、また「ちかぐるっぺ」の皆さんにも幸い会う機会があった。

「東京九友会」は、以前に本誌の49号で長尾磯夫さんがユーモラスに紹介していたが、確か30年以上も続く同期生の厚い友情の結社である。福岡の「九

友会」は東京のいわば支社として、井上俊二さんのお世話で設立されたが、未だ10年位で歴史が浅い。私は福岡支社の中途採用だから、できれば一度本社に出かけて挨拶をしたいと思っていたので、今回、井上さんの誘いで本社を訪問することができた。会場の代々木倶楽部では、二組の奥様同伴もあってかなごやかな雰囲気の中で、山本兼茂会長や幹事の藤原澄人さん他14名の皆さんから暖かい歓迎を受けた。

皆さん、それぞれ何かの病気を親しい友としながら、それでも福祉のボランティア活動や学生時代『資本論』の読書会での苦労話やアメリカ在住20余年の奮闘談などを拝聴していると、老境の爽やかな青春と逞しい精神は今なお健在だ、との感を深くした。そんななか、九大の知名度低下が話題になって、それはどうやら、中央の学界などで名だたる活躍をする先生方が昔と比べて少なくなったからでは?、といった同窓生の意気軒昂な本音の苦言も飛び出したりしたが、これは母校に対する激励のメッセージとして有り難く受け留めた。

その翌日は、「ちかぐるっぺ」の有吉孝一、平野豊、田浦利雄の諸兄とお互い元気で再会できたことを喜び、そして、大学が消える話をしていると何となく地下室気分になって、現代では労働価値説をどう評価すべきか、などを話題に昔とは違って静かな議論を楽しんだ。

さて、三度目の宴は三月末の卒業式の日であった。この日、東京副支部長の杉哲男さんが卒業祝賀会に列席されていたので、久しぶりにお目にかかって歓談したが、その時のことである。その時、私はきっぱりと目が覚めた。そして、新しい世界に向かって大きな夢が膨らんだ。

大学がとうとう消える、無くなる、と私が箱崎キャンパスへの惜別の情を悲しげに語っていると、杉さんは厳しい口調で、およそ以下のような趣旨の諫言で私をたしなめたのであった。

大学が消えた、無くなる、などと大騒ぎして歎き悲しむとは、もってのほかだ、心が狭い、と。大学が消えたのではなく、新鮮でピチピチした伊都キャンパスという風光明媚な大学が新しく誕生したのだ、だから、われわれ同窓生は伊都キャンパスという新世界への大移動とこれからの躍進を期待して大きな気持で祝おうではないか、といった趣旨の諫言であった。

なるほど、言われてみれば至極もったもな話であって、今では私もすっかり目が覚めて、大きな気持で賛同した、という次第である。

伊都キャンパスでは、これから100年、200年、否、今後は消えることはないだろうから永遠に、わが経済学部と学生の青春との合奏が新しい歴史のシンフォニーを創り、そして威风堂々奏で続けていくだろう。この新キャンパスには、因縁浅からぬ櫻の木が何本か箱



平成30年 春の東京九友会 2018年5月25日
 前列左から藤原澄人、久原夫人、久原肇男、井上俊二、高崎幸雄、逢坂充、山本兼茂。
 中列左から松岡克信、白岩禮三、高崎夫人。
 後列左から中尾太郎、長谷川圭祐、田中誠、森俊司、高橋栄寿、胡居敏明、矢野仁己、

崎キャンパスから移植されたと聞く。この櫻の木は、じつは箱崎時代の文系教職員の有志と昭和35年卒業の同窓生有志の寄贈によるものだが、この櫻の木の

一層の繁栄を願うとともに、わが経済学部が新生伊都キャンパスで創造する明日への歴史に希望を託して祝福しよう。

.....

さようなら箱崎キャンパス ~学生として、同窓会役員として、大学院生として



経済学部同窓会東京支部事務局長
 オリент総合研究所顧問
吉元 利行氏
 1978(昭和53)年卒

1. 学生時と箱崎キャンパス

教養部時代は、1限目は寝坊して、遅刻は多かったものの、必修の単位は落とせないの、割とまじめに、学校に行っていた。しかし、箱崎では、最低限しか、授業に出なくなり、何とか入れていただいた経済原論の逢坂充先生のゼミでさえ、結構さぼっていた。かといって、アルバイトに精を出しているわけでもなく、お金がなかった思い出が多い。あるとき、逢坂教授の大野城の先生のご自宅で、ゼミ生の飲み会が企画されたが、お金がなく、一緒に参加する小林真幸君(昭和55年卒)に電車賃を借りて出かけた。先生のご自宅につくと、会の前に周辺を1~2キロ走ることになった。長距離には自信があった私は、山道を突っ走り、1位になって、気持ちよく飲み始めたが、途中から記憶がなくなり、気が付いたら翌日であった。当然、ゼミ生は誰もいないし、先生も学校に出かけていた。しかし、帰ろうにもお金がない。奥様に500円を借りて、帰ったの

を思い出す。そんな失敗談ばかりの学生生活であった。

2. 卒業後最初の箱崎キャンパス

一年留年して昭和53年に信販会社(現株オリエンコーポレーション)に就職した私は、卒業した6年後、福岡業務センターに転勤となり、久しぶりに福岡に戻ってきた。当時急成長していた信販会社は、大量採用を続けており、若輩の私でも、2年後に新設された福岡管理センター初代所長に就任する程、人材不足であった。

そのような折、本社人事部の採用担当の課長が来福して「出身大学に行って、会社のアピールをしてきてくれ」と依頼された。時期はバブルの真っ盛り、課長からは、「手ぶらでは何だから」とビール券を貰ったのを覚えている。これをきっかけに、学生時代は、ほとんどさぼっていた逢坂ゼミを訪ねることにした。

久しぶりに、箱崎キャンパスに逢坂先生を訪ねてご挨拶し、その後のゼミの時間に再度訪問することにした。「コンパ代の足し」にゼミ幹事に、もらったビール券を渡しに箱崎キャンパスを何度か訪ねたのが、卒業後最初の箱崎キャンパスとのかかわりであった。

3. 東京での二人の恩師との再会

久しぶりの福岡も、結局3年で転勤になり、本社の債権管理部法務課に移った。東京では、法務関連業務で、霞が関の官庁や裁判所に出かけることが多かったが、ある日、地下鉄の駅でばったりと小林真幸君に会った。たぶん、彼の紹介で東京の経済学部

同窓会の存在を知ったのではないかと思う。平成3年同窓会では、同じクラスだった宮本信宏君が事務局をやっていたので同期が12人位参加していた。

そして、平成8年の同窓会に久しぶりに参加したところ、逢坂先生と再会したのである。その頃、逢坂先生は、同窓会の本部の事務局長を担当しておられ、ご挨拶したところ、「君も同窓会の事務局を手伝ってくれ」といわれたのをきっかけに、同窓会事務局を手伝うことになった。

同窓会東京支部では若手理事として事務局を手伝っていたが、法改正などの影響で出張や深夜の会議も増えるなど、会社の仕事のほうが極めて忙しくなった。そこで、逢坂先生が本部事務局長をおやめになるタイミングでやめようと思っていた。ところが、逢坂先生の後の事務局長は福留久大教授だった。福留先生は、実は、入学時の教養部のクラスL-12組の担当であった。オリエンテーションの時にクラスみんなで写真を撮って残していたので、ずっと覚えていた。同窓会で再びお会いした時に、その写真を見せたりして、お話ししていたので、やめるわけにはいかなかった。(福留先生は、事務局長をやめられ、名誉教授となられた後も、本部事務局でこの会報の編集などを現在も手伝っておられます)。

4. 同窓会事務局活動と箱崎キャンパス

平成14年頃、当時の事務局長の方に事情があり、辞められるので、私に、次期事務局長を頼むとの話が来た。しかし、会社の大赤字や事業再編などの関係で、とても引き受けられる状況になかった。結局支部長に就任された安田火災元社長の有吉孝一さん(昭和34年卒)が、同期の森重厚さんに事務局長をお願いされたので、私は、事務局次長にとどまることが出来た。森さんには、有吉支部長の1期2年、荒木千寿支部長(昭和35年卒)の2期4年事務局長を務めていただいたが、折に触れ、交代を要請されていた。そして、平成20年に私が子会社に移ることになり、時間的な余裕もできたので、アサヒビール元社長の池田弘一さん(昭和38年卒)の支部長就任と同時に、とうとう事務局長になった。

これにより、福岡支部の総会などに参加するようになり、その関係で同窓会事務局のある箱崎キャンパスを訪問することになった。大学には、先輩の遠藤准教授や同級生の大下丈一教授が在籍しており、ついでに、かつて在籍した田島寮や松原寮を訪問することもあった。また、当時は九大の伊都キャンパスへの移転が始まっており、経済学部の移転まで、まだ時間があつたものの、移転が終わった工学

部などを見ると、人のいないキャンパスの寂しさが伝わってきた。

5. 大学院入学の誘い

事務局長になると、本部の理事会や経済学部の福岡、関西支部同窓会、法学部など他学部の同窓会、経済学部の卒業祝賀会などにも出席の機会が多くなった。そうなるに必然的に、経済学部や法学部の現役の先生方に、お会いすることも多くなる。

そういう中、当時経済学研究院長であった金融論の川波先生(昭和51年卒。現下関市立大学学長)から、私が消費者信用関係の論稿を多数書いていたことから、大学院の社会人コースに入学して、論文にまとめないかとお誘いを受けた。

大学時代にゼミもまともに通っておらず、経済の勉強はしていないし、現在は、法務関係の業務が中心で、論文も法務系が多かったので、悩んでいたところ、法学部東京同窓会でも、社会人向けの大学院博士後期課程を設けたので、入学しないかとお誘いを受けた。

色々不安なこともあったが、シンクタンクの業務にも密接に関係することもあり、結局九大法科大学院で論文を書く道を選択した。

そのような経緯で、再び、箱崎キャンパスに「学生」として通うことになったのである。

6. さよなら箱崎キャンパス

箱崎キャンパスは、学生として在籍した当時に比べると建物が古くなり、蔦に壁面を占領されるなど痛みもひどくなっていた。しかも、昔は、市内電車が中門前で停車していたため、便利だったが、廃止により、現在は地下鉄の「箱崎九大前」か「貝塚」で降りて、歩かねばならず、暑い夏は、思いのほか、たいへんだった。

しかし、大学院生としての通学は、頻度が低いので、それもまた良い思い出である。在籍した4年間、新たな気持ちで研究に打ち込むことができた。



L1-12 クラス写真 昭和48年4月
2列目左から3人目が筆者
3列目右から2人目が原田先生、6人目が福留先生

大学院では、今までの業務上の経験、政府機関における立法関連の経験と海外法制度の調査を加えて研究し、「クレジットカード取引における利用者保護—その現状と課題—」と題する約50万字の論文を6年かけてまとめ、2016年に博士（法学）の学位をいただくことができました。

これは、ひとえに九州大学経済学部同窓会活動に参加されている先生方のお誘いや逢坂先生や川波先生による励ましのお陰であり、誠に感謝に堪えない。特に、逢坂先生には、名誉教授になられた後も、同

窓会や福岡で開いた「昭和48年入学者還暦の会」にもご参加いただき、その折に、何度も励ましていただいた。なお、学位記授与式は、伊都キャンパスにある椎木講堂であったが、個別に学位記をいただいたのは、箱崎の法学府の教室であった。

結果として40数年間の長い期間にわたり、大学及び新旧双方のキャンパスにかかわりを持つことができたのは、同窓会活動にかかわってきたことからこそである。ここに名を記さなかった方々を含めて、関係者の皆さんに感謝の意を表したい。

リレー随想

意外な技術の話



元川崎重工業(株)副社長

松崎 昭氏

1966(昭和41)年工学部卒

1、新幹線の先頭車形状

最近の新幹線の先頭車両はカモノハシのような形状をしています。空気抵抗を減らす為で無く、トンネル対策です。高速で新幹線がトンネルに突入するとトンネル内の空気が圧縮されて（微気圧波）、反対側の出口でドーンという騒音発生や人家の窓枠を揺らすような不具合が生じます。これを避ける為にはトンネルの断面を大きくするとか、トンネルの前で速度を落とす事などが考えられますが、運用上困難です。そこで車両側はトンネル突入時の断面変化をなだらかにする為カモノハシ形状にして微気圧波発生を抑え、トンネル側は空気抜きダクトを設置するなどの対応をしています。微気圧波エネルギーは速度の5乗に比例します。1964年開業時は最高時速210kmでしたが、現在最高時速320kmまで速くなったので対応が必要になってきました。空気抵抗を減らす為ならもっとシンプルな先頭車両形状で十分です。新幹線より速い飛行機先頭形状がシンプルな事からも分かります。また米国など国土が広大でトンネルが少ない路線では、カモノハシ形状は必要ありません。

先頭車両と最後尾車両は同形状ですが、カモノハシ形状は最後尾車両にとって別の問題を起こします。

走行時、流体力学上の解析でお客様の乗っておられる車体が横揺れする問題が発生します。横揺れは非常に不快な現象ですので、レールを走行する台車とおお客様の乗っておられる車体の間に機械的な装置を追加して、横揺れをする前に反対方向の力を加えて横揺れを防止しています。

また新幹線車両の速度が速くなると別の問題が顕在化し、その一つが電気を取り込む架線とパンタグラフの問題です。パンタグラフが架線と接触しながら前に進むと架線は波打ち（振動する）、波が前方に伝わって進みます。これまでは振動の波が新幹線車両より早く前へ進み問題は無かったのですが、新幹線車両の速度が速くなると架線の波にパンタグラフが追いつく可能性が出て来ます。そうなるとう接触と非接触を繰り返し、架線もパンタグラフも損傷を受けます。その防止の為、架線の直径を小さくすると、架線の波打ちの前方に進む速度が速くなり、この問題を解決しました。

この様に新しい技術に挑戦すると新しい問題が発生するのが常です。因みに新幹線の試験車での走行試験の最高時速は440kmですが、実運用の最高時速は東北新幹線の320km、次いで山陽新幹線の300km、東海道新幹線の285kmです。

2、水素エネルギー社会

まず水素エネルギーの基本をおさらいします。水素の質量あたりのエネルギー量はガソリンの3倍有り、宇宙ロケット（地球の重力に逆らって重量物を打ち上げるので大量の燃料が必要）の燃料に水素が利用される理由です。水素は貯蔵が可能です（電気は大電力貯蔵が出来ない）。輸送や貯蔵は、液体水素（気体を-253度に冷却すると液体になり、体積が800分の1になる）や高圧圧縮ガス（400～700気圧）が通常です。水素は天然には存在せず、化石燃料（天然ガスや石炭などCとHの化合物）の改質

と水（HとOの化合物）の電気分解の2方式で生成出来ます。水素と空気中の酸素が反応してエネルギー（熱や電気）が得られ、排出物は水のみです。現在実用化されているのは燃料電池で、トヨタやホンダの燃料電池自動車（FCV）が代表例です。燃料電池を動力源の鉄道車両、船舶、飛行機も出現しています。更に実用化研究が進んでいるのが水素を燃料にするガスタービンで、天然ガス燃料の現状と異なりCO₂の発生がありません。現在化石燃料を使用している大出力火力発電所が水素燃料に代わる事が考えられます。

次に水素エネルギー社会の必要性に触れます。地球環境に様々な影響を及ぼす温暖化防止の為に、パリ協定では2050年までにCO₂排出量を80%削減する事を目標に掲げています。自然に排出されるCO₂があるので、化石燃料（天然ガス、石油、石炭など）を燃やしてエネルギーを得る事はゼロにしなければなりません。本来限りある化石燃料は、化学素材の原料にすべきです。従ってCO₂を排出しない再生可能エネルギー（太陽光発電、風力発電、水力発電、バイオマス発電など）を主エネルギー源にすべきです。ただ再生可能エネルギーには問題点があり、太陽光発電は太陽光のバラツキが大きく、風力発電は更に風が無いと機能しない不安定な発電で電力供給の管理が困難です。電気そのものも大電力を貯蔵できないという問題を抱えています。そこで余剰電力を利用して水を電気分解し生成された水素を貯蔵すれば、必要な時に電気や温水に変換する事が可能です。例えば風力発電は風任せで、人里離れた山頂から高压電線網で送電してコスト高ですが、風力発電所の真下に設備を設置し風の有る時に水を電気分解して、水素を生成し貯蔵・輸送をすれば効果的です。再生可能エネルギーは太陽エネルギーであり（風力は太陽の熱で風が起り、水力は太陽の熱で蒸発した海水などが雨となってダムに溜まり水車を回す）、太陽と水があれば安定したエネルギーが得られるので、無限量のエネルギーになります。再生可能エネルギーと水素エネルギーを組み合わせれば世界平和に寄与すると考えています。現在世界中で紛争が絶えませんが、この要因の一つが貧富の差にあり、貧富の差の要因の一つに化石燃料の有無があります。アフガニスタンやバングラデッシュは貧しく、サウジアラビアは産油国で豊かです。これまで述べた「太陽と水があれば安定したエネルギーが得られる」は、平等な世界を実現します。

我が国は水素エネルギー推進のトップランナーで

あり、この技術を世界中で支援する事で世界の平和に寄与する事が出来ます。直近の我が国のエネルギー基本計画の中で水素エネルギー推進が謳われており、更に九大はこの研究分野で世界のトップランナーでもあります。

（本文は本年5月19日開催の経済学部同窓会関西支部総会で講演した「意外と知られていない技術の話」の一部を纏めたものです）

リレー随想

就活記～私が農水省に!?!～



竹澤 真理菜氏

2017(平成29)年卒

(藤井美男ゼミ)

私は、2年連続公務員試験を受験しました。1年目は、勉強不足のため失敗してしまいました。その後民間の就活にも挑戦してみましたが、そうした中であらためて「私は公務員になりたい」という思いが自分の中で膨らんでくるのを実感しました。そこで、経済学部を卒業した後、もう1年公務員試験にチャレンジしよう決め、勉強を再開したのです。

2年目は、筆記試験の勉強を計画的に進めるとともに、面接対策にも力を入れることを目標に取り組みました。また、自分が本当に働きたいところがどのような分野なのか見定めるため、たくさんの説明会に参加もしました。役所の職員の方々の話を聞きながら、自分がやりたい仕事はなんだろう、ということを実際に突き詰めた結果、たどり着いたのが農林水産省でした。

私は、小さい頃から鹿児島島の自然豊かな土地で生まれ育ち、新鮮な野菜や肉・魚を当たり前のように食べていました。ところが、大学で



一人暮らしの生活を始めてから、体調を崩しやすくなり、自分の健康は新鮮な食材による食生活に支えられていたんだと、つくづく思うようになりました。そして、食生活の充実は生活の質の向上につながると実感し、国民の食生活を支える大元の官庁である農林水産省に勤めたいと思うようになったのです。

2年目は勉強の甲斐あって試験に何とか合格し、続く官庁訪問も突破して、農林水産省本省の職員として平成30年4月から勤めることになりました。こ

れからは就職活動中の志を常に忘れず、国民の食生活を守り続け、新たなことに挑戦し続けていきたいと思っています。

経済学部の後輩の人たちにエールを送るつもりで、この体験記を同窓会報に寄せることにしました。皆さんの就活成功を祈っています。

最後になりましたが、これまで私を応援してくださったすべての方々にお礼を申し上げたいと思います。ありがとうございました。

経済学部名誉教授の会

第22回の九州大学経済学部名誉教授の会は、2018年4月14日（土）16時から19時まで、経済学部近くの「リーセントホテル」で開催されました。添付した写真の方々が今回の参加者です。現役教授陣を代表して同窓会事務局長の藤井美男先生が参加下さいました。名誉教授側は、木下悦二・大屋祐雪・市村昭三・川端久夫・津守常弘・原田溥・児玉正憲・逢坂充・矢田俊文・福留久大名誉教授の10名が出席しました。

会の冒頭で、藤井先生から、経済学部・研究院の抱える課題について報告を頂きました。秋までの伊都移転の完了、法文経教育四学部で練っている組織改編案などのほか、工学部本部棟の残存見通しを伺い、多少安堵致しました。

50年前の6月2日、米軍機ファントムが九大構内に墜落しました。50周年を迎えて、名誉教授の方々から、1968年に始まる大学紛争＝学生闘争について、多くの秘話を伺いました。木下先生は、都留・湯村の両前任教授が海外研修中だったために評議員の経験もないままに、急遽68年7月1日に経済学部長に就任、米軍機墜落後の学内行政に対処されまし



九州大学経済学部名誉教授の会 2018年4月14日
前列中央の藤井教授を挟んで、左から川端・市村・木下・大屋名誉教授
後列左から原田・津守・逢坂・児玉・矢田・福留名誉教授

た。教授会自治を軸として九大生との折衝に徹する方針ゆえに、学部を越えて賛意と知己を得ることが出来た。就中、武谷健二医学部長は、後に木下先生が二度目の経済学部長として後任学部長の秀村選三先生とともに、経済工学科設置に苦闘されていた時、第15代九州大学学長として、難問だった産業労働研究所問題について学長預かりの形で解決の道を示された。大屋先生は、紛争の渦中で、高木幸二郎、高木暢哉両先生が、学部長・評議員を辞任されたとき、都留大治郎先生主導で、湯村・木下・秀村・片山・近江谷・大屋という方々が博多駅内某所で、学部運営を担う血盟を結ばれたこと、同時に学長の所に学部横断の若手教授の連絡実行委員会が作られたことを披露された。市村先生は、当時西南学院大学の学生部長として紛争解決に尽力されていた。川端先生は、大屋先生の話をつきながら、昭和20年代の若き日の「輝ける大屋学生自治会委員長」の雄姿を想い出したとのことで、時間さえ許せば、幾らでも回顧談が可能だと言われた。川端ゼミOBに依頼して、悠々たるインタビューを計画したいところである。津守先生は、立命館大学に勤務中で、I TやK K（現在は共に共産党有力国会議員）を指導者とする集団と三派系学生集団との激しい対立抗争のなかで苦勞しつつゼミを続けておられた。原田先生の話。68年1月の雪の日、エンタープライズ佐世保寄港反対行動の三派系学生が拠点にした教養部学生会館から佐世保に出かけて血だらけになって帰ってくる。池田数好教養部長（後に第14代九大学長）が教授会で、「皆さんの家で二、三人ずつ泊めて呉れると助かるが」と提案されて、大体皆が引き受けるということになった。「そのことは非常に鮮明に覚えています」と話された。児玉先生の場合、武野秀樹先生

のお誘いで名古屋工大から九大へ移られるのは、エンブラヤファントムに依る事件の10年余り後のこと、それゆえ当時の九大の苦悩は仄聞して心を痛められた。逢坂先生は、当時熊本商科大学（現・熊本学園大学）の経済原論担当でしたが、内地留学で東京におられて、69年1月19日の安田講堂陥落を目の当りにされた。71年に九大に転勤、大屋先生の話に出た「全学連絡実行委員会」が役目を終えた後、主要メンバーが作った「自治懇」（大学自治懇談会）に成り、三転して「悪童会」と称していた会合の事務局を中楯興先生とともに担当されることになる。矢田先生は、当時東大大学院理学研究科の最終学年でした。（因みに、筆者は同じ大学院の経済学研究科の最終学年でした）。名誉教授の会では、当時の経験談ではなく、目下進行中の著作集の一冊「大学論」の要点を披露されました。1968年が大学史における一大転換期で、次の転換期が90年代初頭、それ以降大学自治の弱化は顕著になり、現役の先生方の苦境は深刻化。近刊の著書に詳細が明らかにされるはずで、注目されます。なお、秀村先生は、名誉教授の会発足以来初の欠席でした。亡き奥様の郷里・鹿児島への家族旅行と日程が重なって仕舞いました。



以上は50年前の回顧ですが、ここで15年前の写真掲げてみます。2003年2月第28回関西支部総会に出席した9名です。（現）はその時点での現役教授を、（名）は名誉教授を意味します。左側から矢田俊文（現）、福留久大（現）、伊東弘文（現）、中楯興（名）、大屋祐雪（名）、逢坂充（名）、児玉正憲（名）、深町郁彌（名）、塩次喜代明（現）。名誉教授も現役教授も多人数の参加だった。このなかで、中楯、深町、伊東の御三方が鬼籍に入られた。伊東先生は、この時学部長としての出席だった。先生については本号で愛弟子の上田氏が語っています。中楯先生は、盟友の都留先生とともに、創立時から終始同窓会を指導・支援された。他大学出身の私が、同窓会事務局長就任を躊躇したとき、「他大学の血が入ってこそ活性化するのだ」と後押しを頂いた。学生時代以来継続して九大に在籍された深町先生が昨年11月に逝去されたのは、経済学部の歴史にとって大きな痛手です。筆者個人としても、数多くお世話になりました。特に、1980年の滞英中には、半年先に渡英された先生の宿舎がロンドン北部の隣町だったために、研究会、懇親会と幾度も通ってお酒を振る舞われました。訪英直後の家族5人を連れた筆者がパディントン駅で列車に飛び込むと、奥様同伴でオックスフォードに向かわれる先生が目の前に座っておられた偶然もあった。ロンドン大学の森嶋通夫教授の知己を得られたのも、深町先生に連れられて訪問したのが、契機を成していた。筆者の下宿近くのハイゲート墓地でマルクスに加えて、哲学者Herbert Spencer や男性を装った女性作家George Eliotの墓に先生を案内できたのも忘れ難い思い出です。

福留久大・記（2018.9.14）

九州大学経済学部 国際学術交流振興基金執行状況報告（平成29年度）

国際交流委員会委員長を拝命してから、平成30年（2018年）4月より3年目の任期に入りました。今年度も、どうかよろしく願いいたします。

毎年のことと言うまでもないのですが、同窓会の皆様を中心にご寄付を頂いた資金は、30有余年の間「国際学術交流振興基金」として経済学部における国際学術交流のための基盤を形成してまいりました。改めて心から感謝申し上げたいと存じます。

さっそくですが、平成29年度の経済学部国際学術交流振興基金の執行状況につきましてご報告させていただきます。

別表にありますように、平成29年（2017年）度もまず、毎年恒例の三大学（中国人民大学、南京大学、九州大学）ジョイント・カンファレンスの第12回大会を6月に南京大学で開催し、基金を参加のための諸経費の一部として充当させていただきました。さらに、平成29年4月には、恒例になっている中国人民大学とのダブルディグリー（DD）プログラムのための面接と学術交流促進のために訪中いたしました。その時の記

念品代として基金を利用させていただきました。

次に平成30年（2018年）度から学部の国際コース（略称GProE）のプログラムが開始しましたが、その語学研修先として決定したオーストラリアのブリスベンにあるクイーンズランド大学へ協定締結のために行って参りました。そしてその時の土産代として基金を利用させていただきました。

また海外在住研究者の招聘の件では、ブルゴーニュ大学から国際交流担当の副学長のグレゴリー・ベックマン先生を招聘し、先生方のご専門である管理会計やマネジメント・コントロールに関する講義を経済学府において行っていただきました。併せて、本学教員始め近隣の先生方との学術研究交流も進めることができました。

さて、今年度（平成29年度）からの新たな試みとして、台湾の国立台湾大学との部局レベルの学術交流協定のもとに、2名の学生を派遣することになり、そのための交換留学支援として基金を利用させていただきました。この件に関して特筆すべきことですが、この国立台湾大学との学生派遣を契機に、その後、派遣された学生が中心となり、両大学のゼミ間での研究交流が始まるという嬉しい事柄がありました。この点についても、この場を借りてお知らせしておきたいと思えます。

最後に、今年度は学術特定研究員1名を雇用し、そのための費用を基金から支出させていただきました。

言うまでもなく、本基金は、皆様から頂いた貴重な財産であり、可能な限り持続可能な形で使わせていただく所存です。本年秋の伊都キャンパスへの移転を契機に、これまで以上に教育・研究の国際化が重要な戦略課題となってきました。今後とも有効かつ有益な形で本基金の活用而努力して参りたいと思えます。同窓会の会員の皆様へは、今後とも一層のご支援を賜りますよう、よろしく願い申し上げます。

【国際交流委員会委員長 大下 丈平】

| 申請者 | 内 容 | 期 間 |
|----------------------|--|-------------------------|
| 【 海外派遣 】 | | |
| 大下 丈平（教授） | ※院生等の交換留学支援 国立台湾大学への留学：経済学部経済・経営学科 中村 凜乃 ：経済学府経済工学専攻 片渕 結矢 | 29.2.1 ） 29.6.30 |
| 【 交流協定大学・機関との交流促進費 】 | | |
| 儲 梅芬（講師） | ※共同シンポジウム開催 第12回3大学ジョイントコンファレンス（九州大学・中国人民大学・南京大学） 開催 | 29.6.19 ） 29.6.22 |
| 【 海外在住研究者招聘 】 | | |
| 大下 丈平（教授） | ※国内からの招聘：ブルゴーニュ大学 副学長 グレゴリ・ベックマン 大学院経済学府でのマネジメント・コントロールに関する講義など | 29.8.20 ） 29.8.21 |
| 【 国際交流に伴う物件費 】 | | |
| 大下 丈平（教授） | ※記念品作成費等（九大記念品） 中国人民大学とのダブルディグリー・プログラムのための面接および 学術交流の促進 | 29.4.13 ） 29.4.17 |
| 大下 丈平（教授） | ※記念品作成費等（九大記念品） オーストラリアのThe University of Queenslandを訪問する | 30.3.14 ） 30.3.18 |
| 【 学術特定研究員の設置 】 | | |
| | ※眞田 英明学術特定研究員の雇用 | 29.4.1 ） 30.3.31 |

九州大学同窓会連合会との覚書の締結につきまして 同窓会長 貫 正義

九州大学同窓会連合会との学生等個人情報の共同利用に関する覚書・同意書締結に伴い、下線部分をプライバシーポリシーに追記いたしましたのでご報告申し上げます。

| |
|--|
| 九州大学経済学部同窓会プライバシー・ポリシー |
| 平成30年6月8日 九州大学経済学部同窓会 |
| <p>1. 個人情報の管理</p> <p>九州大学経済学部同窓会、同窓会会員の個人情報について、個人情報保護に関する関係法令に則り、厳重かつ厳正な管理を行います。</p> <p>2. 個人情報の取得</p> <p>本同窓会は個人情報の取得にあたっては適法かつ適切な方法で行います。</p> <p>本同窓会が保有する個人情報は、氏名、卒業年、連絡先住所・電話番号、勤務先名、勤務先・電話番号、メールアドレス等です。</p> <p>また、本同窓会では、会員の方から本人データに関する訂正・追加・削除等の要望があった場合、迅速かつ的確に対応します。</p> <p>3. 個人情報の利用目的</p> <p>本同窓会は、会員相互および母校との親睦・交流ならびに九州大学経済学部の充実、発展をはかることを目的としています（会則第2条）。個人情報の利用についてもこの目的を尊重し、それ以外には利用いたしません。その目的に当たるものは以下の通りです。</p> <p>(1) 同窓会報、総会・支部総会・懇親会案内、会費請求などの通知分の発送</p> <p>(2) 九州大学同窓会連合会又は九州大学が主催、共催又は後援する事業の案内</p> <p>(3) 九州大学並びに九州大学同窓会連合会への提供</p> <p>(4) 九州大学の教育・研究の発展に寄与すると判断される各種事業へ協力依頼</p> <p>(5) 九州大学在学生の就職支援等に関する協力依頼</p> <p>(6) その他同窓会の目的に即した各種事業のための利用</p> <p>4. 個人情報の第三者提供</p> <p>本同窓会が保有する個人情報は、利用目的及び法律に基づき開示しなけれ</p> |

| |
|---|
| <p>ばならない場合を除き、第三者には提供しません。</p> <p>5. 個人情報の安全管理</p> <p>本同窓会は、保有する個人情報を適切に管理するため、不正アクセスや個人情報の紛失、破壊、改ざん及び漏洩に対する必要な予防措置及び安全対策を講じるとともに、適宜その実施方法について見直しを行います。</p> <p>6. 業務委託</p> <p>本同窓会が外部に業務を委託する場合は、個人情報の保護に関し安全かつ適切な管理を行うことができる業者を選定し、かつ厳格に監督の業務を遂行します。</p> <p>現在、次の業者に委託しています。</p> <p style="text-align: center;">委託業者：小野高速印刷株式会社 大分市松原町 2-1-6</p> <p>7. 提供方法</p> <p>個人情報の提供等は、電子媒体又は紙媒体によるものとし、その目的に必要な情報を適切な方法により提供します。</p> <p>8. その他</p> <p>(1) 本同窓会は、本人から個人情報の開示請求があった場合は、本人確認の上、当該本人の個人情報を開示します。</p> <p>(2) 本同窓会は、本人から個人情報の内容について訂正等の申し出があった場合は、その内容を確認した上で、必要に応じて、当該内容の追加、変更、訂正又は利用の停止を行います。</p> <p>(3) 本同窓会は、上記3の利用について、本人から承諾できない旨の連絡を受けた場合は、その対象から除外いたします。</p> <p style="text-align: right;">以上</p> |
|---|

平成29年度卒業生就職状況

平成30年3月31日現在、()は女子で内数

| 学 部 | |
|----------------------|-------|
| 就 職 先 | 人数() |
| 5 コーポレーション | 1 (1) |
| AGC旭硝子 | 1 |
| Donuts | 1 |
| ENEOSグローブエネジー | 1 (1) |
| Gatechnologies | 1 |
| JFEスチール | 2 (1) |
| JR九州エージェンシー | 1 (1) |
| JR九州ホテルズ | 1 (1) |
| JXTGエネルギー | 1 |
| LIXIL | 1 |
| Mckinsey&Company.inc | 1 |
| NECソリューションイノベータ | 2 (1) |
| NTTデータ | 1 |
| NTT西日本 | 2 |
| SCC | 1 (1) |
| Skylight Consulting | 1 |

| 就 職 先 | 人数() |
|-------------------|-------|
| SMBCコンシューマーファイナンス | 1 (1) |
| Speee | 1 (1) |
| TKC | 1 |
| TOTO | 1 (1) |
| あいおいニッセイ同和損害保険 | 1 |
| アクセンチュア | 1 |
| 旭硝子 | 1 |
| 朝日生命 | 1 |
| アソビュー | 1 |
| アドヴィックス | 1 (1) |
| 伊藤忠商事 | 1 |
| 糸島市役所 | 1 |
| エイジェック | 1 |
| 英進館 | 1 |
| 愛媛県庁 | 1 |
| オービック | 2 |
| 大村市役所 | 1 |

| 就 職 先 | 人数() |
|---------------|-------|
| オムロン | 1 |
| カーブスジャパン | 1 |
| 会計検査院 | 1 (1) |
| 海上自衛隊佐世保地方総監部 | 1 (1) |
| 鹿児島県庁 | 2 |
| ガスバル九州 | 1 |
| 兼松 | 2 |
| 監査法人トーマツ | 1 |
| かんぽ生命保険 | 1 |
| 北九州市役所 | 1 |
| 九州大日精化工業 | 1 |
| 九州旅客鉄道 | 1 |
| 京都府庁 | 1 |
| クボタ | 1 |
| 倉吉市役所 | 1 |
| グリー | 1 |
| 黒崎播磨 | 1 |

| 就 職 先 | 人数() |
|------------------|-------|
| 国税庁 | 1 |
| 国土交通省九州地方整備局 | 1 |
| サイバーエージェント | 2 (2) |
| 西部ガス情報システム | 1 |
| 佐賀県庁 | 1 |
| サントリーホールディングス | 1 |
| サンリオ | 1 (1) |
| ジール | 1 |
| ジェーシービー | 1 |
| シマノ | 1 |
| 小学館集英社プロダクション | 1 |
| 商工組合中央金庫 | 2 |
| 商船三井 | 1 (1) |
| 新日本有限責任監査法人 | 4 |
| シンプレクス | 2 |
| ステートストリート信託銀行 | 3 (2) |
| 住友商事 | 1 |
| 住友生命 | 1 (1) |
| セブテーニ・ホールディングス | 1 |
| 全国共済農業協同組合連合会 | 1 |
| ソフトバンク | 2 |
| 損害保険ジャパン日本興亜 | 1 |
| 大正製薬 | 1 |
| 大成建設 | 1 |
| 大東建託パートナーズ | 1 (1) |
| 大和証券 | 2 (2) |
| 中国電力 | 1 |
| 鶴丸海運 | 1 |
| 帝人 | 1 |
| 電源開発 | 2 |
| 電通デジタル | 1 |
| 東京海上日動火災保険 | 3 (2) |
| 東京都庁 | 2 (1) |
| 国立病院機構九州グループ | 1 |
| 凸版印刷 | 1 (1) |
| 豊商事 | 1 |
| トヨタ自動車九州 | 1 |
| 豊田通商 | 1 |
| 鳥飼ハウジング | 1 |
| 長崎市役所 | 1 (1) |
| 西日本鉄道 | 2 (2) |
| ニッセイ情報テクノロジー | 2 |
| 日鉄日立システムエンジニアリング | 1 (1) |
| ニトリ | 3 (1) |
| 日本銀行 | 2 (1) |

| 就 職 先 | 人数() |
|------------------------|-------|
| 日本航空 | 1 |
| 日本出版販売 | 1 |
| 日本触媒 | 1 |
| 日本政策金融公庫 | 8 (2) |
| 日本政策投資銀行 | 1 |
| 日本生命 | 2 |
| 日本総合システム | 2 (1) |
| 日本たばこ産業 | 1 (1) |
| 日本テレビ放送網 | 1 |
| 日本電気 | 1 |
| 日本放送協会 | 1 (1) |
| ネクシーズ | 1 |
| 農林中央金庫 | 3 |
| 野村證券 | 1 |
| 野村不動産 | 2 |
| パーソルキャリア | 1 |
| パナソニック | 1 |
| パナソニックシステムソリューションズジャパン | 1 |
| パラダイムシフト | 1 |
| ビズリーチ | 1 |
| 日立製作所 | 2 |
| 日立造船 | 1 |
| ひびきエル・エヌ・ジー | 1 |
| 広島県庁 | 1 |
| 福岡銀行 | 4 |
| 福岡空港ビルディング | 1 |
| 福岡県信用保証協会 | 1 |
| 福岡県庁 | 5 (2) |
| 福岡県立高校 | 1 (1) |
| 福岡財務支局 | 1 (1) |
| 福岡地所 | 1 |
| 富士通 | 2 |
| 富士フイルムメディカル | 1 (1) |
| フューチャー | 1 |
| フリークアウトホールディングス | 1 |
| プレイス&アビリティ | 1 |
| バイカレント・コンサルティング | 1 |
| ポイントピクチャーズ | 1 |
| 松岡公認会計士事務所 | 1 (1) |
| マツダ | 1 |
| 三島光産 | 3 |
| みずほ証券 | 1 |
| みずほフィナンシャルグループ | 2 |
| 三井住友海上火災保険 | 2 (1) |
| 三井住友銀行 | 4 (2) |

| 就 職 先 | 人数() |
|---------------|---------|
| 三井住友信託銀行 | 1 |
| 三菱UFJ銀行 | 5 |
| 三菱電機 | 2 |
| 三菱電機ロジスティック | 1 |
| 村田製作所 | 2 (1) |
| 明治安田生命 | 2 (1) |
| 山口フィナンシャルグループ | 2 (1) |
| 有限責任監査法人トーマツ | 1 |
| 読売新聞西部本社 | 1 |
| リクルートホールディングス | 1 |
| りそな銀行 | 3 |
| 琉球銀行 | 1 (1) |
| ワイジェイカード | 1 |
| 総 計 | 216(51) |



| 修士課程(学府) | |
|-------------------------------------|-------|
| 就 職 先 | 人数() |
| China CITIC Bank Credit Card Center | 1 |
| KPMG会計士事務所 | 1 |
| LINE Fukuoka | 1 |
| MIKI・ファニット | 1 (1) |
| PwCコンサルティング | 1 |
| TOTO | 1 |
| イオンリテール | 1 |
| イケアジャパン | 1 (1) |
| イフジ産業 | 1 |
| インテル | 1 (1) |
| 内山FP総合事務所 | 1 |
| エス・デザイン | 1 |
| 応研 | 1 |
| 大塚商会 | 1 |
| オリックス | 1 |
| 学習塾Rev | 1 |
| 梶原加寿子税理士事務所 | 1 (1) |
| 佳瑞資詢(上海) | 1 (1) |
| 九州電力 | 2 (1) |
| 九州旅客鉄道 | 3 |
| コカ・コーラ ボトラーズジャパンベンディング | 1 |
| 白井工業 | 1 |
| スターフライヤー | 1 |
| ステートストリート信託銀行 | 2 (2) |
| スリープログループ | 1 |

| 就 職 先 | 人数() |
|----------------------|-------|
| ソニーセミコンダクタ | 1 |
| 空研工業 | 1 |
| 大和証券 | 1 |
| タカギ | 1 |
| 武田薬品工業 | 1 |
| ちくぎん地域経済研究所 | 1 |
| 筑邦銀行 | 1 |
| 中国人寿養老保険有限公司 | 1 |
| つみきや | 1 |
| デロイトトーマツコンサルティング合同会社 | 1 |
| デロイトトウシュートーマツ広島事務所 | 1 |
| 東京エレクトロン | 1 |
| トヨタ自動車技術センター | 1 (1) |
| 中村学園大学 | 1 |
| 西日本シティ銀行 | 1 |
| 西日本電信電話 | 1 |
| ニトリ | 1 |
| 日本たばこ産業 | 1 |
| 日本年金機構 | 1 (1) |
| 農林中央金庫 | 1 |
| パナソニック | 1 |
| 浜屋百貨店 | 1 (1) |
| 福岡学園 | 1 |
| 福岡銀行 | 1 (1) |
| 福岡地所 | 1 |
| 福岡商工会議所 | 1 (1) |

| 就 職 先 | 人数() |
|--------------------|---------|
| 富士ソフト | 1 (1) |
| 富士通 | 1 |
| フリーマム | 1 (1) |
| ペーリンガーインゲルハイム ジャパン | 1 |
| ベガコーポレーション | 1 |
| 本田技研工業 | 1 |
| マツダ | 1 (1) |
| 瑞華会計士事務所大連分所 | 1 (1) |
| 三井化学 | 1 |
| 三菱総研DCS | 1 |
| 三菱電機 | 1 (1) |
| 南日本新聞社 | 1 |
| もち吉 | 1 |
| 安川電機 | 1 (1) |
| ラゼスト | 1 (1) |
| リクルートホールディングス | 1 |
| ワークスアプリケーションズ | 2 (1) |
| 総 計 | 73 (21) |

昨年の「卒業生就職状況」の記事で、担当係の資料を転載したために、「日本政策金融公庫」1名、「日本政策金融国庫」2名、と記載する誤りを生じてしまいました。正しくは「日本政策金融公庫」3名でした。関係の皆さまに深くお詫言するとともに訂正致します。(編集部)

九州大学経済学部同窓会役員名簿

(カッコ内は卒業年次～昭和、ただしHは平成) 2018年9月

| | | |
|-------|---------------------|-------------------------------------|
| 役 員 | 氏 名 | 伊東信一郎副支部長 |
| 会 長 | 貫 正義(43) | 吉元利行事務局長 |
| 副 会 長 | 秦 喜秋(43) 小森田憲繁(46) | 関西支部 小森田憲繁支部長 太田光一副支部長 |
| 事務局長 | 藤井 美男(55) | 中野光男副支部長 谷村信彦事務局長 |
| 監 事 | 貞刈 厚仁(52) 柴田 祐二(59) | 福岡支部 貫正義支部長 貞刈厚仁副支部長 |
| 顧 問 | 大屋 祐雪(26) 淵上 敏晴(29) | 平井彰副支部長 村上英之副支部長 |
| | 福岡 道生(30) 森山 靖章(30) | 高木直人副支部長兼事務局長 |
| | 鈴木多加史(33) 進谷 庸助(35) | (評議員) |
| | 石橋 英治(36) 池田 弘一(38) | 市村 昭三(元教官) 清水 一史(現教員) |
| | 檀 豊隆(40) 初井 勝人(40) | 東京支部と関西支部の理事、福岡支部の評議員の方々は、本部の評議員と兼務 |
| (理 事) | | |
| 本 部 | 貫 正義会長 藤井美男事務局長 | 各支部の役員 |
| | 丑山優名誉教授 深川博史教授 | 東京支部..... |
| | 大石桂一教授 鷺崎俊太郎准教授 | 支 部 長 秦 喜秋(43) |
| 大 学 | 磯谷明德研究院長 清水一史教授 | 副支部長 杉 哲男(43) 伊東信一郎(49) |
| 東京支部 | 秦喜秋支部長 杉哲男副支部長 | |

| | | | | | |
|--------------|------------|-----------|------------|------------|-----------|
| 顧問 | 淵上 敏晴(29) | 福岡 道生(30) | 秀村 選三(22) | 大屋 祐雪(26) | |
| | 池田 弘一(38) | 初井 勝人(40) | 山本 和良(29) | 森山 靖章(30) | |
| | 監事 | 今井 俊之(44) | 富井 順三(50) | 江口 博(34修士) | 真藤 乃輔(34) |
| | | 理事 | 高岩 淡(29) | 三輪 晴治(35) | 麻生喜久男(35) |
| | 岩中 雄次(63) | | 市村 讓(H6) | 沖 弘隆(41) | 安陪 義宏(42) |
| | 弥永 邦夫(H7) | | 岩貝 和幸(H15) | 平本 公雄(42) | 右田 喜章(42) |
| | 青柳 未央(H16) | | 土公 文平(H17) | 寺原 義之(43) | 貫 正義(43) |
| | 宮本 傑(H17) | | 稲波 祥子(H18) | 一丸 孝憲(44) | 鶴川 洋(45) |
| | 伊藤 健司(H19) | | 亀井 祐輔(H20) | 森 恍次郎(45) | 青柳 泰教(46) |
| | 竹之下一也(H24) | | 中村 龍太(H24) | 吉井 勝敏(48) | 岩崎 俊彦(49) |
| 水田 晃斉(H24) | 倉岡楨之介(H25) | | 加藤 孝典(50) | 石田 光明(51) | |
| 上妻 諒子(H27) | 嶋田 直人(H27) | 古賀 英樹(51) | 光富 彰(51) | | |
| 宍田 莉菜(H28) | 美川 優太(H28) | 工藤 重之(52) | 貞刈 厚仁(52) | | |
| 事務局長 | 吉元 利行(53) | | 志村 恭子(52) | 綾部 正博(53) | |
| 事務局次長 | 川原 晃(54) | 大坪 勇二(63) | 岡田 裕二(53) | 境 正義(53) | |
| | 林 秀信(H3) | 原山 泰之(H5) | 小川 重巳(54) | *嶋田 正明(54) | |

関西支部.....

| | | | | |
|---------------|-----------|-------------|-------------|-------------|
| 支部長 | 小森田憲繁(46) | | *三浦 正(54) | *平井 彰(55) |
| 副支部長 | 太田 光一(46) | 中野 光男(50) | *藤本 淳一(55) | 池上 恭子(56) |
| | 顧問 | 鈴木多加史(33) | 石橋 英治(36) | 窪田 秀樹(56) |
| 佐野 壬彦(38) | | 檀 豊隆(40) | 米村 健史(56) | 楠 雅之(57) |
| 事務局長 | 谷村 信彦(H3) | | *高木 直人(57) | *村上 英之(58) |
| 事務局長代理 | 清丸 泰司(H2) | | *柴田 祐二(59) | 友池 精孝(59) |
| | 会計 | 佐藤 敏弘(50) | | 橋本 上(59) |
| 監事 | | 久保 隆二(49) | | *廣川 昌哉(60) |
| | 理事 | ※以上の方は理事を兼任 | | 成宮 正和(61) |
| 江藤 正憲(27) | | 棚倉 亨(27) | *箴島 修三(H元) | *田川 真司(H2) |
| 濱口 廣海(31) | | 山道 茂樹(36) | 山崎 正良(H2) | 尾花 研(H4) |
| 松浦 哲也(40) | | 跡部 千春(44) | *重吉 二憲(H4) | 竹下 将史(H4) |
| 園田 一蔵(49) | | 中野 善文(51) | 手嶋 秀幸(H4) | 中村 昌子(H4) |
| 古賀 英基(53) | | 富山 幸三(56) | *池田 泉(H5) | 宇出 研(H5) |
| 片山 基之(57) | | 川上 寛(58) | *森永 洋昭(H5) | *角 聡(H6) |
| 斉藤 浩志(60) | | 齊藤久美子(62修士) | *山崎 浩(H7) | *沖本 浩司(H8) |
| 北村 英照(H3) | | 川島 満(H4) | 竹下 将史(H8) | 手嶋 秀幸(H8) |
| 権藤 健太(H4) | | 松延 篤(H4) | 渡邊 正司(H8) | *松田 和俊(H9) |
| 向 勇一郎(H5) | | 上田 純也(H8修士) | 仲 義雄(H10) | *宮崎 真吾(H11) |
| 平山浩一郎(H8) | | 藤川 昇悟(H8) | *安藤 大輔(H12) | *森 大輔(H16) |

福岡支部.....

| | | |
|------------------|-----------|----------|
| 支部長 | 貫 正義(43) | |
| 副支部長 | 貞刈 厚仁(52) | 平井 彰(55) |
| | 村上 英之(58) | |
| 副支部長兼事務局長 | 高木 直人(57) | |
| 監事 | 森 恍次郎(45) | 三浦 正(54) |
| 評議員 | (*は運営委員) | |

.....
名古屋地区 板山 和弘(54)**広島地区** 佐藤 敬(23) 白石 順一(34)**大分地区** 高山泰四郎(39)

九州大学経済学部同窓会歴代会長

- 初代 田中 定氏 (昭和50年10月4日～)(3期8年)
 第2代 森下 弘氏 (昭和58年2月4日～)(1期3年)
 第3代 岡野 正實氏 (昭和61年10月24日～)(2期6年)
 第4代 谷川 大介氏 (平成4年10月9日～)(1期1年)
 第5代 渡邊 彦士氏 (平成5年7月7日～)(1期3年)
 第6代 福岡 道生氏 (平成8年10月11日～)(1期3年)
 第7代 吉田 清治氏 (平成12年2月10日～)(1期2年)
 第8代 森山 靖章氏 (平成14年5月31日～)(1期3年)
 第9代 平山 良明氏 (平成17年7月7日～)(1期3年)
 第10代 池田 弘一氏 (平成20年7月7日～)(2期6年)
 第11代 貫 正義氏 (平成26年7月7日～)

同窓会からのお願い

同窓会会費の納入をお願い致します。

会費は、終身会費(45,000円)と普通会費(3年間分4,500円)になっております。

終身会費は一括払いと分割払いとがあります。ご都合のつくときにご協力よろしくお願い致します。

- | | | |
|-------|------|-----------------------------|
| ①終身会費 | 一括 | 45,000円 |
| ② | 3分割 | 15,000円×3回(1.5年間で納入完了) |
| ③ | 6分割 | 7,500円×6回(3年間で納入完了) |
| ④普通会費 | 3年間分 | 4,500円ずつ(11回・49,500円の納入で完了) |

◎平成18年(2006年)3月末日までに旧同窓会規定の終身会費を既に納入頂いております皆様は、そのまま新同窓会規約の終身会員に移行しております。

◎従来の普通会員として今まで振り込まれた合計金額と、49,500円との差額を、今後何回かの分割払い、または一括払いで払い込まれた場合も、終身会員に移行となります。

◎終身会費を分割払いにされます方は、半年毎に3回又は6回続けてお振り込み頂きますようお願い致します。

◎会費納入や住所変更等のデータは、平成30年9月30日現在で集計しました。

住所など身の事情に変更がございましたら、すみやかに下記同窓会事務局までご連絡ください。



九州大学経済学部同窓会事務局

(開室：平日の月・火・木・金 10時～17時)

〒819-0395 福岡市西区元岡744 九州大学経済学部内

TEL 092-802-5561 / FAX 092-802-5560 / E-mail : dosokai@econ.kyushu-u.ac.jp

経済学部同窓会ホームページ <http://koyukai.kyushu-u.ac.jp/alumni/4>

複数の同窓会関係者が写されている写真類を掲載したいと考えております。
 適当なものがございましたら事務局までご連絡下さい。